

沖縄県八重山郡小浜島の民俗植物学

辻 貴志

1. はじめに

本稿は、沖縄県八重山郡竹富町小浜島民の植物利用と知識に関する民俗植物学的研究である¹。小浜島の人々が、身の周りの植物をどのように認識し、知識を育み、利用してきたのかを探ることが目的である。

民俗植物学 (folkbotany) は、人と植物との関係を体系的に捉える学術領域であり、経済植物学や薬用植物学を包摂する、あるいはそれらに包摂される。類似の学術領域に民族植物学 (ethnobotany) があるが、本稿では便宜的に、民俗植物学は、日本国内における常民の植物に関する民俗、民族植物学は日本国外の民族の植物と人の関係について調べる学術領域であると区別しておく。本稿は小浜島の植物利用について、認識、知識、利用の側面から分析する。本稿の分析手法は、先行研究であるフィリピンのハヌノーにおける1,600種を超える植物の認識システムと利用の具体を明らかにした研究 (Conklin 1955)、タイ北部の山地民における1,000種以上の植物と人の多面的関係を著した研究 (Anderson 1993)、そしてアフリカ・カメルーンのピグミーにおける1,100種に上る植物の利用カテゴリーを明らかにした研究 (Terashima, Ichikawa and Sawada 1988) に拠るところが大きい。以上の3つの研究は、数ある先行研究の中でも、膨大な植物を分類し、植物に対する人の認識と利用の総体を解明しており、人と植物の関係の深さと豊かさを浮かび上がらせた点で特筆に値する。

沖縄の植物の民俗植物学的研究としては、まず、山田孝子による八重山の鳩間島島民の生活の諸面と植物の結び付きの強さを明らかにした研究と、波照間島、西表島、鳩間島の島嶼間での植物と人の関係を民族分類の見地から追求した研究が挙げられる (山田 1977、1984)。これらの研究は波照間島314種、西表島368種、鳩間島242種の植物を野生種と栽培種に分け、植物に関する命名、分類、利用について精緻に記述したものである。次に、玉置和夫は、新城島の植物203種の利用と分類体系について調べ、島民の植物知識の状態と分類の仕方の詳細を明らかにしてい

る (玉置 1979)。新城島の人口はかつては700名を超えたが²、石垣島を始めとする他地域への移住により今日では2名程度に減少しており、希少な民俗誌である。特に、民俗分類の体系について、「蔓性」、「羊歯状の葉」、「木質の幹」であるかないかによって、島々の植物が、「蔓」、「ワラビ」、「木」、「草」の生活形に区分されることを示した。生活形 (life form) とは本来、生態学の用語であり、環境下における生物の生活様式に基づく形態を指すが、人類学や日本民俗学では、言語学を援用し、文化における生物の認知パターンやカテゴリーを類別してきた (Brown 1984)³。そして、人々の分類体系については、松井健が、沖縄の8つの島を対象とした生活形の理論的研究を展開し、「蔓」、「ワラビ」、「木」、「草」に加えて、「タケ」という生活形があることを突き止めている (松井 1983、1989)。筆者の小浜島での調査の結果、以上の生活形に加えて「シダ」と「花」というカテゴリーが確認でき、人々の分類体系が極めてユニークであることが示された。さらに、琉球列島で自生・栽培されている植物は約900種に及び、天野鉄夫はこれらの和名、学名、方言名を明らかにしている (天野 1979)。この研究は琉球列島における方言名の多様性を浮き彫りにした。こうした方言名の多様性については、山田がメタファーの観点から分析を行い (山田 1997)、松井は生業や単に面白いといった興味など、人々の様々な生活側面に応じた命名について考察している (松井 1997)。また、久高島の有用植物185種を利用の観点から記載した前田由香里の研究は、植物が生活のあらゆる場面で利用されると共に、保護されてきたことを明らかにした (前田 1994)。近年の生活様式の変化により、野生植物を利用する機会が減少し、島の生活と植物との関係が崩れつつある問題点も指摘している。小浜島においても、島の生活の近代化により、島民の植物利用と知識が希薄化しており、在来の知識の記述が喫緊の課題である共通点が見出された。これまで、小浜島に関する民俗植物学的研究はなかった。八重山郡の民俗植物学の先行研究に小浜島

の事例を加えることで、同郡の植物の知識や利用に関する状態を比較することが可能となるであろう。小浜島の植物に関する民俗の特徴や時代的推移を知る上でも一資料となることを期した。

本稿では、筆者がフィールドワークで採集した406種の植物について、小浜島の島民がどのように認識し、様々な生活の局面に利用しているのかどうかについて検討する。近隣の鳩間島や新城島の民俗植物誌を援用することで、八重山における植物に関する民俗の一端を描き出すことを目標とする。そして、地域の近代化に伴い、植物に関する民俗が希薄化している問題点を結論として考察する。

2. 調査方法

島内の植物を採集し、腊葉標本を作成した。情報提供者である島民に標本を提示し、方言名や利用法といった民俗知識を収集した。時間にゆとりのある島民を見つけてランダムに聞き取りを行ったが、植物の利用と知識に詳しい古老に焦点を定めた。標本の同定には沖縄の植物図鑑（池原 1984）を主に利用した。

同定が困難な標本については、専門家（故・斎木保久 神戸学院大学薬学部名誉教授）に同定を依頼した。

現地調査は、1996年7月から1997年9月の間、通算4回計3ヶ月半に渡り実施した。

3. 調査地の概要

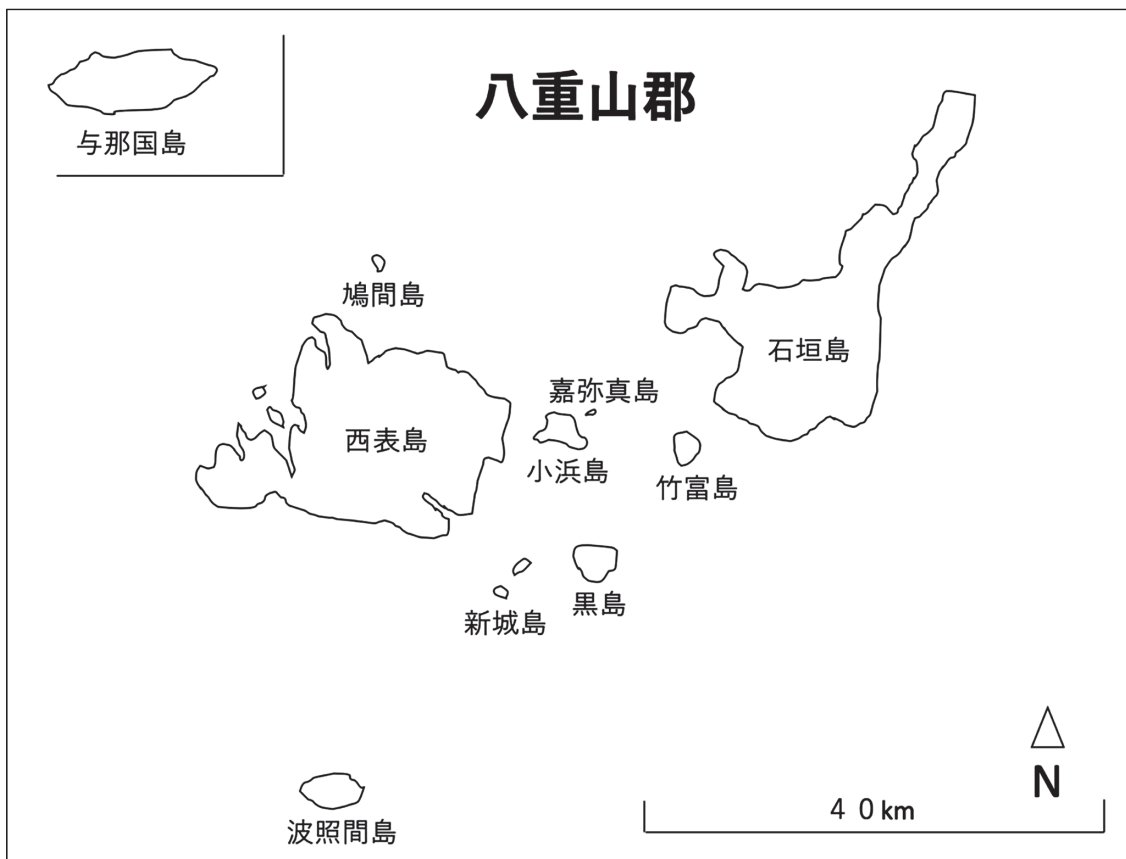
八重山諸島は、石垣島、西表島、鳩間島、竹富島、小浜島、嘉弥真島、黒島、新城島、与那国島、波照間島から構成される（図1）。

八重山地方は亜熱帯海洋性気候に属し、四季の変化ははっきりとしない（表1）⁴。

八重山諸島は、高い島と低い島に分けられ、前者では稲作、後者では畑作が中心である（吉田 1996）。小浜島の中心である小浜地区には、大岳（ウフダキ）と呼ばれ神聖視される標高99.4メートルの山がそびえる（小浜島民俗芸能保存会 1966）。2020年の島の人口は706人である⁵。小浜地区は、西表島の古見集落から分村した歴史を有する（鶴藤 1972；竹富町誌編集委員会 1993；宮良 1971）。

サトウキビ産業が主要であり、島には製糖工場があ

図1. 小浜島の位置



る。石材であるトラバーチンは戦争中の1943年まで採掘されていた(竹富町誌編集委員会 1974)。小浜地区の人々は農民であり、豊年祭であるアカマタ・クロマタ儀礼、結願祭、種子取祭を始め数々の年中行事を執り行う(河村 1999; 宮良 1971; 鈴木 1979; 高原 1983; 山城 1972)。サトウキビの刈入れ時には、宮古島を始め他地域からの季節労働者が島を訪れる。その他、水稲、パイナップルも目立って栽培されている。水稲は島内だけでなく、西表島に出作りをしていた(鶴藤 1972)。パイナップル産業は1950年代に活況を呈した(竹富町誌編集委員会 1993)。パイナップルは、台湾から八重山に移住した人々によってもたらされ、産業化された(新崎他 1983; 松田 2004)。

島の西方の糸満漁民の集落である細崎(クマンザキイ)地区では、潜水具と銛(イーゲン)を用いた漁撈(突き漁)やモズクの養殖が活発である海人(ウミンチュ)の集落である。細崎地区には、大正7、8年頃にカツオ工場が建ち、栄えた(竹富町誌編集委員会 1993)。島の沿岸部には石干見(カキヌ)が確認できるが、手入れがなされておらず、今日、石干見は利用されていない⁶。

島の東方には、外部資本の大型のリゾート施設「はいむるぶし」があり、島の人々の雇用と観光客の誘致

	月別平均気温(°C)	降水量(mm)
1月	19.9	264.5
2月	22.2	190.0
3月	21.9	223.0
4月	24.8	339.0
5月	25.8	137.0
6月	28.3	116.0
7月	29.9	209.5
8月	29.6	376.5
9月	27.8	469.5
10月	26.0	26.5
11月	23.6	25.0
12月	21.1	325.0
平均	25.0	225.1

表1. 小浜島の月別平均気温と降水量(石垣島地方気象台のデータを基に筆者作成)*

* データは小浜島のものではなく、石垣島のを代用した(<https://www.jma-net.go.jp/ishigaki/press/tenko/data/old/tenkou2019.pdf>: 2020年9月18日閲覧)。

に貢献している⁷。石垣島から小浜島へのフェリーが出ており、両島を往来する片道の所要時間は30分程度である。島には小学校と中学校しかなく、高等教育を受けるために、多くの若者は島外に出る。

4. 島の植生

a. 海浜植生

波打ち際の岩部には、ハマエノコロ、コウライシバ、イソマツが目立ち、砂浜部にはゲンバイヒルガオが多く、イリオモテアザミ、アオガンピ、ハマウド、ツルヨシ、ハマオモトも随所に見られる。コンクリートの護岸の付近には、モンパノキ、クサトベラ、イボタクサギ、ハマゴウ、ハテルマギリ、シマエンジュ、イソフジを見る。

b. アダン林

海浜植生と低地林の間の地帯で、アダンを中心に、トウトルモドキ、ツノクサネム、オオハマボウ、モモタマナ、ダンチクが生育し、農耕地への防潮と防風の林の役目を果たしている。

c. 居住地

フクギ、アコウ、ガジュマル、センダン、トベラが屋敷内外に多く見受けられる。周辺の空き地には、ハイニシキソウ、コミカンソウ、アフリカヒゲシバ、タツノツメガヤが繁茂する。屋敷内の庭木や生垣には、観賞用の植物が植栽されている。

d. 休耕地

焼畑耕作の後で放棄され、利用されていない土地にはギンネムが生い茂り、チガヤ、ススキ、センダングサが繁茂している。それらに混じって、ナワシロイチゴやギンギンナスビが地を這っている。スイギュウ、ウシ、ヤギの放牧地には、ソナレシバやパラグラスが多く、ウマノアシガタ、ホウライカガミ、ヒトモトススキも見かける。

道路沿いには、シマグワやヤンバルアカメガシワを多く見る。サフランモドキやダンドクといった観賞用植物や、シロツメグサ、アメリカハマグルマ、ランタナのような被覆植物も多く見かける。

e. 耕作地

土地改良によって島の大部分はサトウキビ畑になっているが、農道の脇にはリュウキュウマツやデイゴが点在している。耕地内には、センダングサやハイキビが侵入している。畔には、ネズミノオ、フトボナガボ

ソウ、ムラサキイノコズチを多く見る。

f. 低地林

小浜島には9カ所の御嶽があり、それらをフクギやテリハボクに見られる高木が覆っている。周辺の火入れされた土地のように禾本類は見られず、クワズイモやコミノクロツグ、リュウキュウトロロアオイが生育し、ナガバカニクサや、オキナワサルトリイバラ、トウツルモドキが木本に巻き付いている。

g. 大岳

御嶽と同様、聖域として保護され、低地林の植生に加え、ヒラミレモン、ハゼノキ、タブノキ、フジボグサ、ツワブキ、シマユキカズラが目立つ。カンザンチクの群落も見る。

h. マングローブ林

島の西端の細崎の海岸から北端の海岸にかけてをカトウレ（潟原）と言い、その海岸にはオヒルギ、マヤプシキの群落がある（竹富町誌編集委員会 1974）。ヒルギダマシ、メヒルギ、ヒルギモドキも生育する。

5. 島の植物の分類

a. 生活形による分類

小浜島の植物の生活形は、木本植物、草本植物、蔓性植物に3分類された（表2）。

生活形	確認植物数
木本植物	215 (53.9%)
草本植物	121 (30.6%)
蔓性植物	60 (15.5%)
合計	406 (100%)

表2. 小浜島の植物の生活形（聞き取りにより筆者作成）

先行研究（松井 1983、1989）によると、小浜島の島民は植物の生活形を「キ」（木）、「ファ」（草）、「カンザ」（蔓）の3分法で類別しているが、筆者は本調査により、そのいずれでもない「タキ」（タケ）、「シダ」（羊歯）、「ハナ」（花）を範疇に入れていることを確認した。ただし、「シダ」と「ハナ」については、聞き取りの結果、個人の印象としての感が強く、検証可能性に乏しいと判断したことから、本稿では、小浜島の島民による植物の民俗分類は、基本的に「キ」、「ファ」、「カンザ」、「タキ」の4分法されることを示した（表3）。その他、バナナやパパイヤなど

植物によっては、雄「ピキ」と雌「ミー」という性差が確認できる（Conklin 1955; 玉置 1979）。

民俗分類	確認植物数
キ	218 (53.9%)
ファ	133 (33.0%)
カンザ	51 (12.8%)
タキ	4 (0.3%)
合計	406 (100%)

表3. 小浜島島民による植物の民俗分類（聞き取りにより筆者作成）

今回の調査で、4種のタケを確認した。タケは最も島民が多岐に渡って利用してきた植物である。現在では島内でのタケの利用はタケノコを採ることくらいだが、過去には生活の中に広く用いられていた。住居や生活用具、燃料としての利用だけでなく、島内での物々交換や周辺離島との交易にも利用され収益に繋がっていた（竹富町史編集委員会町史編集室 1994）。通過儀礼でも、嫁ぎ先で飢えたり苦勞したりすることのないよう、親が娘にタケを授けるという慣習も存在した。鯉織の竿や釣竿として島外に売り出すには良質のタケを生産する必要があり、除草したり質の悪いタケを間引くといった行き届いた竹林の管理が必要であった。特に、カンザンチクは島の名産とされ、釣竿用として和歌山県からの需要があった。現在では、竹林は手入れが行き届かず、荒れるがままの状態である。

以上のような幅広い利用を念頭に置いて、生活形を聞き取りしたところ、タケを「タキ」だと答えた島民が大半であったが、「キかファのどちらかわからない」と決めかねる人もいた。関連して、オキナワテイカズラのような蔓性植物や、コンロンカといった半蔓性木本を見せると、それらが「キ」であるのか「カンザ」であるのか、また見せる部位によっては「ファ」であるのか迷う人々もいた。

このような手順で、バナナは「キ」に類別された。パパイヤは「キ」、サトウキビは「ファ」に分類されたが、「どちらかわからない」と答える島民もいて、両義性をどう取り上げるかという問題が生じた。

シダ植物や、花の咲いた木本及び草本植物を島民に見せると、「これはシダだ」とか「これはハナだ」という答えが返ってくるがあった。「シダ」や「ハ

ナ」といった独自のカテゴリーが存在する可能性がある。ニチニチソウやランタナを人々に見せれば、「ハナ」と答え、テッポウユリには「ユリヌパナ」という方言名がある。ブッソウゲは「アカバナ」や「グショーヌパナ」、コウシンバラは「チョーシンヌパナ」と呼ぶが、いずれも花部が顕著である。デイゴに関しては、「ズクイキ」という方言名がある一方、「ギンベンヌパナ」と呼ばれる。

「シダ」や「ハナ」が上位カテゴリーに並ぶかどうかについては、聞き取り対象者の数を増やすことで明確にする必要がある。

b. 利用用途による分類

小浜島の植物の内、採集できた406種について島民に利用用途を聞き取った(表4)。利用用途は15分類できた。利用用途に対する利用頻度指数(412種)を示したが、これは複数回答により得られた値である。

植物の利用用途	利用頻度指数
食用(嗜好品を含む)	106(25.6%)
薬用	42(10.2%)
建材	18(4.4%)
生活用材	33(8.0%)
燃料	6(1.5%)
飼料	40(9.7%)
肥料	11(2.7%)
防風林・防潮林	23(5.6%)
衣料	5(1.2%)
染料	14(3.4%)
結束	9(2.2%)
儀礼	20(4.9%)
遊び	21(5.1%)
観賞用(生垣・庭木を含む)	59(14.3%)
その他	5(1.2%)
合計	412(100%)

表4. 小浜島での植物の利用用途と利用頻度指数(聞き取りにより筆者作成)

b-1. 食用(嗜好品を含む)としての利用

現在、小浜島で食用に供されている植物は106種(25.6%)である。その内、47種(44%)が栽培植物である。栽培植物の割合は自生のものに比べて低いが、食卓での摂取頻度の大半を占める。土地改良や農

薬散布の影響で多くの食用植物が姿を消したり、食することが敬遠されている。食用植物の棲息環境が道路の舗装やリゾート施設の敷地に姿を変えることで、「あそこに行けばその植物が生えている」というかつての島民のメンタルマップは縮小している。若い人はそういった知識を持たず、わざわざ採集して食べなくてもよいように島の生活も変化した。例えば、アダンの若芽は外側の硬い葉を除いて中心部の柔らかい部分を取り出し、アク抜きのために水にさらした上で料理するが、不留まりが少なく労力がかかる。現在では、石垣島のスーパーでパック詰めされたアダンの若芽が販売されていて、手間と時間をかけてまで自生のものを利用しようとする人はいない。

b-2. 薬用としての利用

薬用として利用されている植物は42種(10.2%)であった。薬用植物の利用も、食用のものと同様である。その植物が自生していた場所の消失や農薬に対する危惧の他、若い島民が薬用植物に対する知識を持たず、地元の診療所、石垣島の薬局や病院に行く方が確実に安全であるという価値観が広がったことも、島の薬用植物の利用を希薄化させた。筆者が調査期間中に、実際に薬用として利用されているのを見かけた植物は、ウイキョウ、オオバコ、サクナ、チガヤ、ヘクソカズラくらいであった。

b-3. 建材としての利用

建材として利用されるという植物は18種(4.4%)であった。現在では、建材として利用される植物はほとんどない。建築用の木材のほとんどは西表島からユイマールという互助作業によって伐り出していたが、沖縄の本土復帰以降は営林署の厳しい監視のために山入りは次第に廃れていった。現在では屋敷は台風に近いコンクリートに、屋敷の入口と母屋の間に設ける中城(ひんぷん)もタケで編んだものからブロックの仕切りに変わった。

b-4. 生活用材としての利用

33種(8.0%)の植物が生活用材として利用されていたと、島民は回答した。生活用材は、現在の生活の中に必要とするものは島内の商店や石垣島で容易に入手でき、植物を加工した道具や用具類、そして生産道具も技術の発達によって顧みられなくなった。農作業時においても、箕はレインコートに、クバ笠は市販のものや帽子に変わった。クバ団扇は、筆者の調査期間

中に作られているのを確認した。儀礼に使用する面も、石垣島にいる職人から手に入れ、島の人自らが加工することはなくなった⁸。

b-5. 燃料としての利用

燃料として利用された植物は6種(1.5%)であった。今日、燃料は島内にあるガソリンスタンドで石油や灯油が手に入り、ガス会社の出張所もあり家庭内にはプロパンガスが使われるようになり、ほとんどの家庭では薪や枯れ葉の利用はされなくなった。照明も、電気が送電されるようになり、松油の利用がなくなった。小浜島に電気施設が導入されたのは、1964年であり、それまではランプが利用されていた。プロパンガスが生活の中に入ったのは、1973年前後である(竹富町企画課 1988)。

b-6. 飼料としての利用

飼料として利用されるという植物は40種(9.7%)を占めるが、今日では化学飼料が取って代わり、家畜に草を与える機会は減少した。筆者の調査期間中、サトウキビの加工の際に出た葉をウシの飼料にしているのを見かけたが、このような葉の多くは放棄されていた。

b-7. 肥料としての利用

11種(2.7%)の植物が肥料に用いられてきたという回答を得たものの、今日では化学肥料が使われるようになった。緑肥にしていた植物も、刈り取った上で腐食させて用いるには手間が掛かり、進んで緑肥を用いている人は見かけなかった。

b-8. 防風林・防潮林としての利用

23種(5.6%)の植物が防風林・防潮林として利用されてきたが、現在でも従来と同じ役割を果たしている。災害被害に対する緩衝帯としての役割以上に、今日では乗用車の駐車場や物置き場になっている場合が多い。

b-9. 衣料としての利用

衣料に利用される植物は5種(1.2%)であった。現在では、日常生活でイトバショウやカラムシの繊維で織った着物を着ることはないが、儀礼の際にはそれらの着物を着用する。儀礼によっては白と黒の着物が使い分けられるので、島の人々は自分専用の数着の昔ながらの着物を所有している。女性は農作業や家事の合間を縫って、糸を紡いだり、機織り機で着物を織っているが、その多くは年配の女性である。

b-10. 染料としての利用

染料用に利用されてきた植物は14種(3.4%)であった。染料は、現在でも主に着物を染めるためにアイから採る。アイは水に石灰を入れたものに浸けて、アイトロにして使う。ヒルギやフクギの樹皮から染料を採る場合は、煮立てて染料を得る。これらで糸を染めるが、染料を作り着物を織るまでの全ての工程が女性の仕事である。

b-11. 結束用としての利用

結束用に利用すると回答された植物は9種(2.2%)であった。結束は、ナガバカニクサやリュウキュウボタンヅルのような儀礼に使うものは別として、現在ではナイロン製の紐や針金が使われる。クロツグやオオハマボウの繊維から縄を撚るのは、見られなくなっている。

b-12. 儀礼用としての利用

儀礼用に用いられてきた植物は20種(4.9%)である。儀礼には、必ずいくつか決まった植物を利用する。シマオオタニワタリやチトセランやマサキはそのために庭に植えられているのであろう⁹。生活の中のほとんどの儀礼は簡素化されているが、農という生業を営む中で、豊作や幸福を神と先祖に祈る信仰は保たれている。アカマタ・クロマタ儀礼の草衣装の素材となる植物は、大岳から採集されるというが(村武 1991)、素材の詳細は明らかでない。

b-13. 遊びとしての利用

21種(5.1%)の植物が、遊びに用いられてきた。今日では、植物の遊びへの利用は、子供達にはほとんど見られない。植物を利用した遊びについて、筆者は一度も見かけていない。遊びの道具は、コンピューターゲーム、パソコン、スマートフォンとなり、様々な植物に手を加え遊ぶという風俗は姿を消してしまった。

b-14. 観賞用としての利用

観賞用として利用される植物の割合は高く、59種(14.3%)を占める。これらは屋敷地内だけでなく、農地や、放牧地や、大岳の頂上でも見かけた。人々の関心から様々な観賞用植物が植えられ、通学路に植えたりされている。ランタナやグラジオラスのように勢力を持って繁殖する植物は、島の植生の一部となりつつある。生垣や庭木にも、かつてはなかったであろう観賞用の植物を多く見かけるようになっている。

b-15. その他の利用

上記以外の植物の利用として、その他（1.2％）に該当する植物が5種挙げられる。これらの用途は経済活動と口承文芸である。例えば、タケの一種であるダイサンチク、ハウライチク、ホテイチク、カンザンチクは物々交換に用いられたことから、過去の有用性の高さを窺わせる。口承文芸は、小浜節を始め小浜島では豊かであり（小浜島民俗芸能保存会 1966；高原 1985；山城 1972）、植物の中でもデイゴが登場する。

6. 有用植物の島嶼間比較

— 鳩間島・新城島との比較 —

ここでは、小浜島周辺に位置する鳩間島と新城島との植物利用について比較する。これら3島は、地理的区分により、文化的にも類似性があり、植物の利用形態も似るのではないかという仮説が成り立つ。

比較対象とする鳩間島（山田 1984）と新城島（玉置 1977）での調査は、前者が1972年から1973年、後者が1973年から1977年に実施された。これらの研究は、筆者が小浜島で調査を展開した1996年から1997年と比べて20年以上時代を遡る。この間、それぞれの島は近代化により、様々な変化を遂げてきたであろう。筆者の調査は、島民が記憶する過去から現在に至るまでの植物の民俗の記録に重点を置いている。島の植物的環境が変化したことや、聞き取りの対象が高齢者に限られたことから、島の人々の植物の民俗に関する記憶は必然的に過去に焦点が当てられている。この20年間以上に渡る調査期間の隔たりは、島の文化や環境の急激な変化だけでなく、島に生きる島民の意識の変革をもたらした。現在、島の生活に植物はほとんど利用しない。生活の場からの植物利用の消失だけでなく、人々の記憶からも植物の民俗は喪失しつつある。これら3島の植物知識を比較することは、植物的環境に依存してきた人々の植物に対する態度や、八重山島嶼社会で失われた植物の民俗を復元することに寄与する可能性を有する。

有用植物は、小浜島では121種、鳩間島では109種、新城島では97種が確認されている。これらのデータに表4の植物の15の利用用途を交え、各島嶼の植物の民俗を比較する（表5）。

利用形態	小浜島	鳩間島	新城島
食用	25.6%	18.6%	19.6%
薬用	10.2%	14.2%	15.5%
建材	4.4%	6.0%	5.7%
燃料	1.5%	4.7%	6.5%
飼料	9.7%	7.3%	4.9%
肥料	2.7%	2.1%	n.d.
儀礼	4.9%	14.2%	11.4%

表5. 小浜島、鳩間島、新城島における植物利用率の比較（山田 [1984] 及び玉置 [1977] を参照に筆者作成）

食用としての植物の利用率は、小浜島25.6％、鳩間島18.6％、新城島19.6％と小浜島がやや高い利用率を示した。3島では利用植物種や利用部分も類似しているが、利用が異なる点をいくつか挙げる。テッポウユリは鳩間島と新城島で食用に供す。新城島では、根茎の外側を取り除き、中の部分にかまどの灰を入れアク抜きを施す。これにイモを混ぜ食用とする。パイアの幹を食する際にもアク抜きをする。鳩間島と新城島ではスベリヒユを、新城島ではアオビユを茹でて食用に供す。新城島ではハリビユは刺があるので食用にしないが、小浜島では葉の部分を利用に供す。

薬用として3島に共通する植物は、イソマツ、オオバコ、ホソバワダン、ヨモギの4種である。小浜島の利用率（10.2％）が低い、島の生活の近代化が影響していると考えられる。それぞれの利用法や効用は、イソマツは鳩間島と新城島では根を陰干しにしたものを泡盛に浸けて飲む。鳩間島では神経痛に、新城島では万病の薬として供する。鳩間島と小浜島では、煎じ薬として利用するが、鳩間島では根を煎じて神経痛の薬にするのに対して、小浜島では、根、茎、葉を煎じたものを痰や肝臓や腎臓の薬に供す。オオバコは、鳩間島では、ジュズダマ、シソ、アダン、メドハギ、ワケギと一緒に煎じることで、風邪や麻疹の薬にする。新城島では、陰干ししたものを煎じて下剤にする。小浜島では、陰干ししたものを煎じて、鎮咳、喘息、利尿、整腸、血圧、心臓の薬にする。火で炙った葉をおできや切り傷の局部に被せたり、と幅広く利用している。ホソバワダン、鳩間島では、葉を搗いて絞った汁を飲用し腹痛の薬に、葉を食用にし高血圧の薬に供す。新城島では、切干にして泡盛に浸けたも

のを胃腸や肝臓、マラリアの薬にした。小浜島では、茎と葉を料理に混ぜ、胃腸、便秘、癌の薬にする。ヨモギは、鳩間島では、葉の汁を飲用し解熱に供する。新城島では、粉にして絞ったものを風邪薬やマラリアの薬として飲んだ¹⁰。小浜島では、絞った葉や茎の汁を黒糖に混ぜ解熱や血圧の薬にしたり、葉をハブに咬まれた局所に付けて焼く。万病の薬ともいう。その他に、小浜島と鳩間島では、アキノワスレナグサ、アコウ、クマツヅラ、クワズイモ、ジュズダマ、ボタンボウフウが、新城島とでは、シマニシキソウ、バンジロウ、ヘクソカズラが共通する。鳩間島と新城島では、オシロイバナ、ハマウド、ヒマ、スベリヒユが共通する。各島の薬用としての利用率は、小浜島 9.3%、鳩間島 14.2%、新城島 15.5%である。小浜島の利用率が低い要因として、鳩間島と新城島との研究の間に 20 年以上の開きがあり、小浜島の人々の植物の民俗が薄らいでいることが指摘できる。例えば、小浜島の人々は、ジュズダマやシマニシキソウを薬用として認知しているが、その利用法や効用については知らないという調査結果を得た。

建材としての利用率は、小浜島 4.4%、鳩間島 6.0%、新城島 5.7%である。小浜島の利用率が低いのは、島の近代化に影響によるものだろう。どの島もほとんどの建材を西表島に依存し、柱材や板材を確保してきた。小浜島では主に、アカギ、イスノキ、イヌマキ、ミヤマシロバイ、モッコク、タブノキを利用してきた。各島に共通の建材は、イヌマキ、チガヤ、トウツルモドキ、フクギであり、利用用途もそれぞれ同じである。

生活用材の利用について、各島に共通する生活用材は、センダン、デイゴ、テリハボク、トウツルモドキ、ハスノハギリ、ビロウの 6 種であり、これらの利用法もほとんど同じである。

燃料としての利用率は、小浜島 1.5%は、鳩間島 4.7%と新城島 6.5%に比べて低い。小浜島の利用率が低いのは、島の生活の近代化により電気やガスが導入されたからであることは間違いない。小浜島では、アカテツ、アダン、オキナワシャリンバイ、ソテツ、チガヤ、リュウキュウマツの 6 種を利用するが、これらの中でもリュウキュウマツが、良質の燃料として生活燃料のほとんどを占めていた。現在、島内では、リュウキュウマツの絶滅が危惧されているが、過去に

は松の植林地（ユクニムル）があり（山城 1972）、地名にもマツチャマ（松山）やヤラマツがあることから、松が豊富に存在したことが窺える。各島共通の利用はアカテツだけである。小浜島は、鳩間島とはアカテツ以外にアダンとソテツが共通し、新城島とはオキナワシャリンバイが共通する。鳩間島と新城島では、ガジュマルとタイワンウオクサギが共通する。

飼料は、小浜島 9.7%が、鳩間島 7.3%と新城島 4.9%を凌ぐ。1995 年、小浜島の農家の家畜保有数は、肉用牛 535 頭、ヤギ 65 頭、ニワトリ 100 羽であった（沖縄県企画開発部統計課 1995）。鳩間島では、ブタとヤギを換金用として飼育されているとの記述があるが、ウシの飼育についてもウシコッカ（コフウセンカズラ）やウシサクナ（ハマウド）の記述から窺うことができる（山田 1977）。新城島でも、50 頭前後の肉用和牛が放牧されており、ヤギも数等飼育されているとの記述があり、ハマセンナにはピミジャキ（ピミジャはヤギの意）という方言名が付されている（玉置 1979）。小浜島では、どの家畜がどの植物を好むかについての情報を得たが、家畜を表す方言名の付いた植物は確認できなかった。鳩間島と新城島では利用数こそ少ないが、植物方言名の中に家畜の好みを的確に反映させているのではなかろうか。各島に共通する飼料としての植物はないが、小浜島と鳩間島ではシマグワ、チガヤ、ハマイヌビワが、小浜島と新城島ではトベラとハマセンナが共通する。

肥料の利用は、小浜島と鳩間島ではほとんどが緑肥としての利用であり、オオバイヌビワとシマグワが共通している。鳩間島ではこれらの利用を含め 5 種しか利用されておらず、利用率は小浜島 2.7%に対し、2.1%と少ない。新城島では、肥料に関する記述が見られない。鳩間島や新城島を始め、竹富島や黒島といった水田のない島では、西表島や由布島への遠距離通耕をしていた。島内では焼畑農耕は、自給自足的なものに留まっていた。このような事情が、鳩間島や新城島では肥料としての植物が少ない要因となっているのではなかろうか。

防風林や防潮林としての利用は、小浜島が鳩間島や新城島と異なるのは、マングローブ林を有することである。どの島も台風の影響を受けるが、サンゴ礁や周辺離島に囲まれた小浜島、西表島の側に位置する鳩間島では、比較的台風による被害は少ない。外洋に面す

る新城島や黒島では、台風や津波による被害は甚大である（牧野 1968）。小浜島では 17 種の植物が利用され、鳩間島 9 種、新城島 4 種を上回る。この理由として、第一に他の 2 島とは異なり、地形に起伏があり、地下水に恵まれていることが挙げられる。鳩間島と新城島は隆起サンゴ礁の島であり、植物相が単調であり、海辺には植物が生育しにくい。第二に、島の面積と人口規模が挙げられる。鳩間島と新城島の面積は、小浜島のおよそ 4 分の 1 である。人口は、鳩間島は小浜島の約 8 分の 1、新城島に関しては 2 人が住むだけであるという。島の面積と植生の関係から、植物数は比例していると言えるのではなからうか。各島に共通する植物は、テリハボクとフクギだけであるが、小浜島では、イソフジ、イボタクサギ、ハテルマギリ、モンパノキ、クサトベラといった海岸生の植物が防風や防潮の役目を果たしていて、護岸的要素が強いものに対して、鳩間島では、アコウ、イヌマキ、ガジュマル、ゲッキツといった屋敷地を保護する要素が強い。

衣料としての利用は、カラムシ類が各島にあり、利用法も同じである。

染料は、鳩間島ではフクギの記載があるのみである。小浜島では、着物を染める染料にヒルギ類を用いる。この他に、フクギ、リュウキュウコマツナギ、ソメモノイモがある。イヌマキ、カカツガユ、コウトウヤマヒハツは食物の着色料として利用する。

結束は、小浜島と鳩間島では、トウツルモドキが共通する。小浜島では、他にカニクサ、イリオモテシャミセンヅル、テリハノブドウ、ノアサガオ、ゲンバイヒルガオを利用する。オオハマボウやゲットウは、一度繊維にして綱を撚ったものを結束に用いるが、鳩間島でもアダンとコミノクロツグを同様の方法で利用する。この他に、シノキカズラも利用する。

儀礼に関しては、小浜島の利用率 4.9% と、鳩間島 14.2%、新城島 11.4% に比べて極めて低い。この差は、年中行事としての儀礼を筆者が一年を通してきめ細かに観察することができなかったことに起因する。小浜島と鳩間島では、ビロウは共に神の宿る木である。小浜島では、タイワンウオクサギを庭に植えると縁起が悪いというが、鳩間島ではアマクサギを忌避する。小浜島と新城島では、リュウキュウボタンヅルを同様の目的で利用する。鳩間島と新城島では、ボタン

ボウフウ、シマグワ、マサキ、クロトン、エビヅルが共通するが、その中でもシマグワを雷除けとして扱っている。クワの木には雷が落ちないという¹¹。小浜島ではこのような観念は確認できなかった。

遊びについては、小浜島と鳩間島では、ソテツとフクギが共通している。ソテツは、鳩間島でも女の子のおもちゃとして鞠に加工する。筆者は小浜島で 14 種の遊びに用いられる植物を記載したが、現在ではどれも遊びに利用しない。

観賞用の植物については、小浜島と鳩間島ではシマオオタニワタリ、ゲッキツ、フクマンギの 3 種が共通する。シマオオタニワタリやマサキを始めとする植物は、儀礼や料理に欠かせないものを庭に植える傾向がある。

以上、見てきた分類項目の他に、鳩間島では魚毒の利用があるが、小浜島村内集落では魚毒に関する情報は得ることができなかった。細崎集落では、過去に利用していたという情報を得たが、植物種を明らかにすることはできなかった。魚毒はマメ科の *Derris* spp. であると推測できる。新城島では自然暦としての植物の利用が 3 例ある。その中でも、イリオモテアザミの花が咲くと、2 月風回り（ニンガチカジマイ）すなわち台湾坊主（温帯低気圧）の季節が終わるという。小浜島の細崎集落では、海岸に海藻のフクラ（未同定）が流れ着くと 2 月風回りが終わるとされている。村内集落では、自然暦としての植物の利用を確認することはできなかった¹²。

本章の最後に、各島の植物方言名の割合を比較する。小浜島では、406 種の植物の内、215 種（52.9%）について方言名が確認できている。前出の植物利用については、406 種中 121 種（29.8%）が利用されているだけであり、経済に見られる外的条件によってこれらの植物の利用が喪失してきたことは明白である。新城島の事例では、48.0% の植物の利用が明らかになったが、現在の島の状況を考えるとさらなる減少は必至である。確認植物 203 種中 140 種に方言名が存在し、その割合は 68.9% である。植物の中には、利用されず、名付けられずにただ存在するものがあり、そういったもののほとんどは日常認知しにくいものである。島民が認知しているものは栽培植物や観賞用植物がほとんどであるが、それらはたいてい和名や商品名で呼ばれている。ここで有用植物に限って方言名を

考察してみる必要がある。小浜島では、121 種中 111 種 (91.7%) に方言名が存在する。鳩間島では 109 種中 104 種 (95.4%)、新城島では 97 種中 89 種 (91.7%) である。小浜島と鳩間島・新城島ではデータに 20 年の格差があるものの、方言名の残存率にはほとんど隔たりがないことが明らかである。有用植物といえども、現在の生活の場ではほとんど利用しない。これだけの高い割合で方言名が残存しているのは、その植物が、島の生活が近代化により変容する以前は明らかに重要であったからであろう。

7. おわりに—薄れゆく小浜島の植物の民俗—

以上、小浜島島民は、小離島といった限定された環境ではあるが、利用可能な有用植物に依存し、小離島での生計を達成してきた。西表島への木材の切り出しや移動稲作により、小浜島での植物利用は開かれた系であった。日常の生活を充足させる植物は島内でまかない、不足する植物は西表島に依存する方法が小浜島の植物利用及び生活の知恵であった。衣食住に加え、医療や儀礼を始め、様々な文化要素が小浜島での植物利用に凝縮されていたことは、周辺離島である鳩間島や新城島との比較からも明らかとなった。

小浜島島民の植物分類は、「キ」、「ファ」、「カンザ」、「タキ」を基本とするが、「シダ」と「ハナ」も包摂される可能性がある。その範疇が存在するとするなら、小浜島島民の植物分類は極めて豊かで多様であると評価できよう。加えて、雄「ピキ」と雌「ミー」という性差による植物の分類がなされており、島民が植物を厳選して利用していることが示唆できる。島民の植物への眼差しは有用植物に対しての場合がほとんどであり、有用でない植物については認知すらしていないようである。有用ではないものの、島民にとって利害が伴う植物は分類され、名称が与えられている。例えば、ハジキ (ハゼノキ) は人の皮膚を被れさせ、その症状は「ハンサンマッキ」と呼ばれる。ミーフクラキ (ミフクラギ) は樹液が有毒で、目に入ると失明するとされる。マンップコーマ (ギンギナスビ) は形態が毒々しいイメージであり、実際にその刺が体に刺さると化膿することから注意が必要である。マンップコーマとは「化け物の卵」の意であり、島民が植物と化け物の世界を結び付けていることが窺える。このように、島民の植物に対する見立ては、島民

の暮らしだけでなく、世界観も反映している。

本調査の結果、採集できた植物 406 種の内、自生植物は 210 種 (51.7%)、帰化植物は 149 種 (36.7%)、栽培植物は 47 種 (11.6%) であった (表 6)。島民が意図的に島に持ち込んだり、意図せずに島で繁殖した植物は、少なくとも 48.3% と在来の植物の半数近くをこれらの植物が占めている。有人島では人為的な影響による自然変化が進んでいる (山崎他 2016)。帰化植物が増えることで、特に有用植物の増加は、島民の在来植物に対する認知を複雑化することにつながっているのではなかろうか。外来の有用植物の導入により、栽培や鑑賞のための新たな植物に対するインデックスから、今日、有用性を失った在来植物が抜け落ちている可能性が指摘できる。例えば、子供の遊びにおいて、アコーキ (オオバアコウ及びアコウ)、ガンツプニ (ガジュマル)、ヤラプー (テリハボク) の樹液は鳥を捕獲するための鳥もちとして利用されていた。鳥もちは内地にも輸出されていたという。今日、鳥もちで鳥を捕ることに興味を抱く子供はいないだろう。過去の植物利用が今日において必要性を失いつつあることは、薬用、建材、燃料、飼料、肥料を始めとする用途が、近代的な医薬品、住宅資材、ガス、配合飼料、化学肥料に置き換わった、生活の近代化が主要因として挙げられる。小離島であれども、今日、小浜島は商業の中心である石垣島にアクセスしやすいことから、在来植物に代わる資源を容易に入手することができる。島内でも、インターネットやスマートフォンの普及により、便利さを享受することが可能となり、わざわざ植物を利用して遊ぶという必要性は陰を潜めた。西表島に通い木材伐採や稲作をするといった生活スタイルも終焉した。近代化は、島民の植物に依存した生活や意識を大きく変化させた。

島の近代化は、1970 年代に急速に波及した。竹富町の国立公園化による開発、取り分けて西表島を主体とする離島を含む地域を自然公園とする計画が行政に

植物の種類	確認植物数
自生植物	210 (51.7%)
栽培植物	47 (11.6%)
帰化植物	149 (36.7%)
合計	406 (100%)

表 6. 小浜島の自生・栽培・帰化植物 (聞き取りにより筆者作成)

より進められると、島の土地の買い占めに外部資本の触手が錯綜した（山城 1972）。土地改良事業（面整備事業）¹³も進み、1976年には糖業に対する生産意欲の高まりから（瀬戸 1982）、島民の植物利用のメンタルマップと機会は大きく縮小した。1979年には、島のリゾート開発の影響で、植物の棲息場所が減少し、植物に関する民俗は希薄化した。例えば、土地改良後に島民が見かけなくなったり、かつて縄張りのように認知していた棲息場所が消失した植物に、島民がおやつとして実の生食に親しんできたテンツィ（オオバライチゴ及びナワシロイチゴ）、フビイル（タイワンアキグミ）、バンシュル（バンジロウ）、カナスピィ（イヌホオズキ及びテリミノイヌホオズキ）が挙げられる。今日、これらの植物を利用する機会は減少している。生態系や社会経済の変化によって、島民の植物利用と知識は希薄化した。農薬の影響も、こうした植物を生食することに歯止めをかけた。島民の植物への親しみは、島の近代化により減退し、植物知識を豊富に有する古老の命も有限であることから、今日、島の植物の利用と知識を維持することは極めて困難であると本稿は評価する。小浜島における植物の利用と知識は記録することが急ぎ求められるが、植物知識を今日いかに島民が伝承していくかということが大きな課題であると結論付けられる。

本稿は、小浜島の島民の中でも植物の利用と知識に詳しい古老数名を対象に聞き取りを行った結果である。本稿に関する調査を終了してから、すでに現時点で23年が過ぎようとしている。島はますます近代化し、植物に詳しい古老も物故しつつある。本研究は約20年前の記録であり、今日、同じような植物の利用や知識が確認できるか確証に乏しい。引き続き実態調査が待たれる。

調査期間中に収集し、調査対象とした406種の小浜島の植物については、Appendixに、学名、和名、方言名、生活形、用途、そして植物の利用と知識に関する情報を示したので参照頂きたい。

謝辞

本研究を展開するにあたり、小浜島の多くの島民の方々の助力を得た。取り分けて、小浜島民俗資料館の故・慶田盛正光・英子夫妻には誠に温かいご支援を頂いた。

指導教員であった故・伊谷純一郎神戸学院大学人文学部名誉教授、寺嶋秀明同教授には、修士論文を完成させる上で、物心両面から手厚いご指導を賜った。武田淳佐賀大学農学部名誉教授は、沖縄で調査研究を行うにあたり数々の便宜を図って下さった。

本稿を本誌に掲載するにあたり、近畿大学民俗学研究所の藤井弘章教授には、大幅な誌面を使わせて頂くことに快諾頂いた。匿名の査読者の方には有益なコメントを頂戴した。

本研究はまた、平成11～13年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)「南西諸島域における生態系の持続的利用の構造と平等原理の機能について」(研究代表者：寺嶋秀明)により可能となった。

以上、記して感謝申し上げる次第である。筆者のすこぶる怠慢により、本稿のデータの公表が大きく遅延した。その間に、本研究にご協力頂いた方々が多く物故されたと思われる。甚だ申し訳ない次第である。本稿を特に、小浜島の故・慶田盛正光・英子夫妻、故・伊谷純一郎名誉教授、故・斎木保久名誉教授に捧げることをお許し願いたい。

注

- 1 本稿は、筆者の修士論文(1999)と関連する民俗植物リスト(2003)を大幅に加筆修正したものである。
- 2 竹富町 (<https://www.town.taketomi.lg.jp/about/aragusuku/>; 2020年9月18日閲覧)の情報に基づく。
- 3 例えば、岡山県真庭郡湯原町栗谷では、ゼンマイはオトコゼンマイとオンナゼンマイに区別されるが、生物学的には一種であり、雌雄異種ではない。実葉をオンナゼンマイと言って好んで採取され、胞子葉をオトコゼンマイと称し嫌われる事例がある(篠原 1995)。このような認知の仕方の違いを民俗の中に突き詰めるのも日本民俗学の一つの興味深いテーマである(篠原 1990、1995)。
- 4 石垣島地方気象台 (https://www.jma-net.go.jp/ishigaki/know/kiko/index_yaekiko.html; 2020年9月18日閲覧)の情報に基づく。
- 5 竹富町 (https://www.town.taketomi.lg.jp/userfiles/files/jinko_list_R2_5.pdf; 2020年9月18日閲覧)の統計に基づく。

- 6 1972年時点、小浜島には27基の石干見が確認され、その内の6基が使用されていた(矢野・中村 2007)。
- 7 小浜島でのリゾート産業構想は、1970年に日本楽器製造株式会社(現ヤマハ株式会社)によって進められた(慶田盛 1988)。現在では、三井不動産株式会社が運営する。
- 8 アカマタ・クロマタ儀礼のための面を作る材木は、島内のトウカナジイという方言名のヤエヤマギリあるいはハマギリで作られる(宮良 1971)。
- 9 庭にどのような植物を植えているかを知るとは、文化や民俗を知る上で重要なテーマである。沖縄県では、久高島の庭の植物を扱った研究(嵯峨根 1996)が確認できる。
- 10 八重山諸島は沖縄の中でもマラリアの侵淫率が最も高かった地域であり、マラリアは「ヤキー」として住民に恐れられた。米軍支援による撲滅運動の結果、1959年に根絶された(平良 1984)。
- 11 雷獣や雷神が原因と見なす日本各地域では、落雷から逃れるために「クワバラクワバラ」と言う風習が残っている(畑中 2017)。
- 12 八重山の生物暦(石垣島、西表島、与那国島)については大仲(2003)を参照。
- 13 沖縄県農林水産部八重山農林水産振興センター農林水産整備課(https://www.pref.okinawa.jp/site/norin/norin-yaeyama-nosui/documents/1-1_1.pdf; 2020年9月18日参照)。

参考文献

- 天野鉄夫 1979『琉球列島植物方言集』那覇, 新星図書出版。
- Anderson, E. 1993 *Plants and People of the Golden Triangle: Ethnobotany of the Hill Tribes of Northern Thailand*. Hong Kong: Dioscorides Press.
- 新崎盛輝・大城将保・高嶺朝一・山門健一他 1983『観光コースでない沖縄—戦跡・基地・開発・離島—』東京, 高校生文化研究会。
- Brown, C. 1984 *Language and Living Things: Uniformities in Folk Classification and Naming*. New Jersey: Rutgers University Press.
- Conklin, H. 1955 *The Relation of Hanunóo Culture to the Plant World*. Ph.D. Dissertation of Yale University.
- 畑中章宏 2017『天災と日本人—地震・洪水・噴火の民俗学—』東京, 筑摩書房。
- 池原直樹 1984『沖縄植物野外活用図鑑(1~10巻)』那覇, 新星図書出版。
- 河村只雄 1999『南方文化の探究』東京, 講談社。
- 慶田盛正光 1988『島に生きる』石垣市, 矢島印刷。
- 小浜島民俗芸能保存会編 1966『うふたき—郷土民俗芸能保存記念号—』小浜島民俗芸能保存会。
- 前田由香里 1994「沖縄県久高島の植物と民俗」『久高島の自然と文化』神戸学院大学人文学部人類学研究室, pp.44-76.
- 牧野清 1968『八重山の明和と津波』熊本, 城野印刷所。
- 松田良孝 2004『八重山の台湾人』石垣市, 南山舎。
- 松井健 1983『自然認識の人類学』東京, どうぶつ社。
- 松井健 1989『琉球のニュー・エスノグラフィー』京都, 人文書院。
- 松井健 1997「分類と命名」『月刊言語』26(4): 20-26.
- 宮良賢貞 1971「小浜島のニロー神」大藤時彦・小川徹編『沖縄文化論叢2 民俗編I』東京, 平凡社, pp.302-307.
- 村武精一 1965「八重山・小浜島の聖域(wan)祭祀」古野清人編『沖縄の社会と宗教』東京, 平凡社, pp.309-327.
- 村武精一 1991「南部琉球における象徴的二元論」植松明石編『環中国海の民俗と文化 第二巻 神々の祭祀』東京, 凱風社, pp.257-274.
- 仲盛マツ子 1985「戦時下の小浜島—特攻艇部隊とマラリアと—」石垣市史編集室『市民の戦後・戦後体験記録 第三集—あのころわたしは—』石垣市, 石垣市役所, pp.30-33.
- 大仲浩夫 2003『八重山の自然歳時記』石垣市, 南山社。
- 沖縄県企画開発部統計課 1995『1995年農業センサス農家調査農業集落別結果表—宮古郡八重山郡—』那覇, 沖縄県企画開発部統計課。
- 嵯峨根洋美 1996「沖縄県久高島における庭の植物」『久高島の自然と文化 第2集』神戸学院大学人文学部人類学研究室, pp.39-49.

- 篠原徹 1990『自然と民俗—心意のなかの動植物—』東京, 日本エディタースクール出版部.
- 篠原徹 1995『海と山の民俗自然誌』東京, 吉川弘文堂.
- 鈴木正崇 1979「来訪神祭祀の世界観—赤マタ・白マタ・黒マタ再考—」『社会人類学年報』5: 67-102.
- 瀬戸弘 1982『竹富町の島々と共に』沖縄, 沖縄高速印刷株式会社.
- 平良一彦 1984「風土病」木崎甲子郎・目崎茂和編『琉球の風水土』東京, 築地書館株式会社, pp.215-232.
- 高原繁 1980『ふるさとの味 小浜語彙』鹿児島市, かわち印刷有限公司.
- 高原繁 1985『小浜讀本—随想録望郷 第二集—』鹿児島市, かわち印刷有限公司.
- 竹富町企画課編 1988『島じまのすがた』石垣市, 竹富町役場.
- 竹富町古謡編集委員会 1980『竹富町古謡集(第一集)』石垣市, 竹富町教育委員会.
- 竹富町誌編集委員会編 1974『竹富町誌』那覇, 竹富町役場.
- 竹富町誌編集委員会編 1993『竹富町史・別巻3 写真集 ぱいぬしまじま—写真にみる竹富町のあゆみ—』石垣市, 竹富町役場町史編集室.
- 竹富町史編集委員会町史編集室編 1994『竹富町史 第十一巻 資料編 新聞集成 I』石垣市, 竹富町役場.
- 玉置和夫 1979『沖縄の植物と民俗—玉置和夫遺稿集—』東京, 玉置和夫遺稿集刊行会.
- 辻貴志 1999「小浜島の植物と民俗—うすれゆく植物知識の現状—」神戸学院大学大学院人間文化学研究科修士論文(未刊行).
- 辻貴志 2003「沖縄県小浜島の民俗植物リスト」『平成11～13年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書—南西諸島域における生態系の持続的利用の構造と平等原理の機能について—』(研究代表者: 寺嶋秀明), pp.45-70.
- 鶴藤鹿忠 1972『琉球地方の民家』, 東京, 明玄書房.
- Terashima, H., Ichikawa, M. and Sawada, M. 1989 Wild Plant Utilization of the Balese and the Efe of the Ituri Forest, the Republic of Zaire. *African Study Monographs Supplementary Issue 8*: 1-78.
- 山田孝子 1977「鳩間島における民族植物学的研究」伊谷純一郎・原子令三編『人類の自然史』東京, 雄山閣出版株式会社, pp.241-300.
- 山田孝子 1984「沖縄県, 八重山地方における植物の命名, 分類, 利用—比較民俗植物学的考察—」『リトルワールド研究報告』7: 25-235.
- 山田孝子 1997「命名とメタファー」『月刊言語』26(4): 27-33.
- 山城浩 1972『小浜島誌—心のふるさと—』那覇, 小浜島郷友.
- 山崎仁也・横田昌嗣・知念美香・仲宗根忠樹・比嘉清文・加島幹男 2016「鳩間島・新城(上地・下地)島・黒島の植物相(FLORA)」『鳩間島・新城島・黒島総合調査報告書』沖縄県立博物館・美術館, pp.12-67.
- 矢野敬生・中村敬 2007「沖縄・小浜島の石干見」田和正孝編『ものと人間の文化史 135 石干見(いしひみ)』東京, 法政大学出版会, pp.55-114.
- 吉田佳代 1996「生業活動における歴史性と民俗性—八重山調査より—」劉茂源編『ヒト・モノ・コトバの人類学』東京, 慶友社, pp.138-148.

Appendix. 小浜島民俗植物リスト

Pteridophyta [羊葉植物]

Lycopodiaceae [ヒカゲノカズラ科]

1. 学名：*Lycopodium cernuum* Linnaeus
和名：ミズスギ
方言名：
生活形：ファ
用途：

Selaginellaceae [イワヒバ科]

2. 学名：*Selaginella tamariscina* (Beauv.) Spring
和名：イワヒバ
方言名：
生活形：ファ
用途：

Ophioglossaceae [ハナヤスリ科]

3. 学名：*Helminthostachys zeylanica* (Linn.) Hooker
和名：ミヤコジマハナワラビ
方言名：
生活形：ファ
用途：
4. 学名：*Ophioglossum petiolatum* Hooker
和名：コヒロハナヤスリ
方言名：
生活形：ファ
用途：

Gleicheniaceae [ウラジロ科]

5. 学名：*Dicranopteris pedata* (Houtt.) Nakaike
和名：コシダ
方言名：
生活形：ファ
用途：

Schizaeaceae [フサシダ科]

6. 学名：*Lygodium japonicum* (Thunb.) Swartz
和名：カニクサ (テリハカニクサ)
方言名：チカラカンザ、シツィカンザ
生活形：カンザ
用途：結束、儀礼
蔓の性質が強いことからチカラカンザと言う名がある。旧暦10月のシツィ行事(結願祭)の際に、柱に結び付けて魔除けとする習俗がある。
7. 学名：*Lygodium microphyllum* (Cav.) R. Brown
和名：イリオモテシャミセンヅル
方言名：シツィカンザ
生活形：カンザ
用途：結束、儀礼
旧暦10月のシツィ行事の際に、柱に結び付けて魔除けとする習俗がある(高原 1985)。

Dennstaedtiaceae [コバノイシカグマ科]

8. 学名：*Pteridium aquilinum* (Linn.) var. *latiusculum* (Desv.) Underwood ex Heller
和名：ワラビ
方言名：バラピィ
生活形：ファ
用途：食用
食用に供す。

Lindsaeaceae [ホングウシダ科]

9. 学名：*Sphenomeris biflora* (Kaulf.) Tagawa
和名：ハマホラシノブ
方言名：
生活形：ファ
用途：
10. 学名：*Sphenomeris chinensis* (Linn.) Maxon
和名：ホラシノブ
方言名：
生活形：ファ
用途：

Davalliaceae [シノブ科]

11. 学名：*Nephrolepis hirsutula* (Forst.) Presl
 和名：ヤンバルタマシダ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

用途：食用、儀礼、観賞用

新芽を湯がいて料理に用いる。庭に植える。葉を床の間に生ける。

Parkeriaceae [ミズワラビ科]

12. 学名：*Ceratopteris thalictroides* (Linn.) Brongniart
 和名：ミズワラビ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

17. 学名：*Asplenium nidus* Linnaeus
 和名：シマオオタニワタリ
 方言名：サラムシイル
 生活形：ファ

用途：食用、儀礼、観賞用

新芽を湯がいて料理に用いる。庭に植える。葉を床の間に生ける。

Pteridaceae [イノモトソウ科]

13. 学名：*Pteris ensiformis* Burmann
 和名：ホコシダ (アオイノモトソウ)
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

Blechnaceae [シシガシラ科]

18. 学名：*Blechnum orientale* Linnaeus
 和名：ヒリュウシダ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

14. 学名：*Pteris fauriei* Hieronymus
 和名：ハチジョウシダ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

Lomariopsidaceae [ツルキジノオ科]

19. 学名：*Bolbitis heteroclita* (Presl) Ching
 和名：オオヘツカシダ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

15. 学名：*Pteris ryukyuensis* Tagawa
 和名：リュウキュウイノモトソウ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

Thelypteridaceae [ヒメシダ科]

20. 学名：*Cyclosorus acuminata* (Houttuyn) Nakai ex H. Ito
 和名：ホシダ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

Aspleniaceae [チャセンシダ科]

16. 学名：*Asplenium australasicum* (J. Sm.) Hooker
 和名：ミナミタニワタリ
 方言名：サラムシイル
 生活形：ファ

21. 学名：*Cyclosorus interruptus* (Willdenow) H. Ito
 和名：テツホシダ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

22. 学名：*Cyclosorus parasiticus* (Linn.) Farwell

和名：ケホシダ

方言名：

生活形：フア

用途：

採って食用に供した。味噌にしたり、澱粉を天ぷらにした（仲盛 1985）。枯葉を燃料にした。雌花に付いている綿のような柔毛を集めて丸め、これを芯にして、それに毛糸を巻いて鞠（マール）を作った。鑑賞用とする（高原 1985）。

23. 学名：*Thelypteris torresiana* (Gaudichaud) Alston

和名：アラゲヒメワラビ

方言名：

生活形：フア

用途：

Podocarpaceae [イヌマキ科]

28. 学名：*Podocarpus macrophyllus* (Thunb.) D. Don

和名：イヌマキ

方言名：キャンギ

生活形：キ

用途：食用、建材、染料、観賞用

白蟻が付かない重要な建材であり（高原 1985）、西表島から伐り出した。舟材にも用いた。実は生食でき、着色料（紫色）にも使う。庭木として植える。

Polypodiaceae [ウラボシ科]

24. 学名：*Colysis pothifolia* (Don) Presl

和名：オオイワヒトデ

方言名：

生活形：フア

用途：

Pinaceae [マツ科]

25. 学名：*Microsorium scolopendria* (Burm.) Copeland

和名：オキナワウラボシ

方言名：

生活形：フア

用途：

29. 学名：*Pinus luchuensis* Mayr

和名：リュウキュウマツ

方言名：マチィキ

生活形：キ

用途：建材、燃料、儀礼

材は舟材に利用されたが重く、加工もしにくいのであまり用いなかった。薪に使ったり、樹脂の部分（アカス）を削り取って（高原 1980）、松油（ジュウ）を採った。よく燃えて長持ちした。昔は正月の門松に用いたりしたが、近年は減少が危惧されている。

26. 学名：*Marsilea crenata* Presl

和名：ナンゴクデンジソウ

方言名：

生活形：フア

用途：

Gymnospermae [裸子植物]

Cycadaceae [ソテツ科]

27. 学名：*Cycas revoluta* Thunberg

和名：ソテツ

方言名：シティーツイ

生活形：キ

用途：食用、燃料、遊び

戦中戦後の食料不足時には、実と茎から澱粉を

Cupressaceae [ヒノキ科]

30. 学名：*Juniperus taxifolia* Hooker et Arnott var. *luchuensis* (Koidzumi) Satake

和名：オキナワハイネズ

方言名：ピケーシィ

生活形：キ

用途：観賞用

観賞用として植える。

Araucariaceae [ナンヨウスギ科]

用途：

31. 学名：*Araucaria heterophylla* (Salisb.) Franco
 和名：コバノナンヨウスギ（シマナンヨウスギ）
 方言名：
 生活形：キ
 用途：観賞用
 観賞用として植える。

Angiospermae [被子植物]

Dicotyledoneae [双子葉植物]

Casuarinaceae [モクマオウ科]

32. 学名：*Casuarina equisetifolia* J. R. et J. G. Forster
 和名：モクマオウ（トクサバモクマオウ、トキワ
 ギョリュウ）
 方言名：モクモー
 生活形：キ
 用途：防風林・防潮林
 防風林、防潮林に用いる。落葉したり、枯れたり、折れたりしやすいが、再生が早い。

Myricaceae [ヤマモモ科]

33. 学名：*Myrica rubra* Siebold et Zuccarini
 和名：ヤマモモ
 方言名：ムン
 生活形：キ
 用途：食用、観賞用
 赤く熟した実を生食する。実を塩漬けにし保存食にしたり（高原 1985）、泡盛に浸け果実酒にする。現在の島のリゾート施設「はいむるぶし」の辺りに多く見られたと言う。屋敷内にも植えた。

Ulmaceae [ニレ科]

34. 学名：*Celtis boninensis* Koidzumi
 和名：クワノハエノキ
 方言名：
 生活形：キ

Moraceae [クワ科]

35. 学名：*Broussonetia papyrifera* (Linn.) L'Heritier et Ventenat
 和名：カジノキ
 方言名：カピーキ
 生活形：キ
 用途：衣料
 樹皮から真っ白い繊維（キシヌカー）を採る。編み上げて男用の帯にする。

36. 学名：*Ficus caulocarpa* Miquel
 和名：オオバアコウ
 方言名：アコーキ
 生活形：キ
 用途：飼料、肥料、遊び
 葉をやぎの飼料にする。葉を緑肥にするが、現在ではほとんど化学肥料を使う。根の汁から鳥もちを作り、子供が鳥を捕って遊んだ。

37. 学名：*Ficus elastica* Roxburgh
 和名：インドゴムノキ
 方言名：ゴムノキ
 生活形：キ
 用途：観賞用
 観賞用として植える。

38. 学名：*Ficus erecta* Thunberg
 和名：イヌビワ
 方言名：スタビ
 生活形：キ
 用途：食用、飼料、遊び
 葉をやぎの飼料にする。実を生食した。子供が青い実をおもちゃの鉄砲の弾にした。

39. 学名：*Ficus microcarpa* Linnaeus fil.
 和名：ガジュマル
 方言名：ガンツプニ
 生活形：キ
 用途：飼料、遊び

葉をやぎの飼料にする。葉を緑肥にするが、現在ではほとんど化学肥料を使う。根の汁から鳥もちを作り、子供が鳥を捕って遊んだ。

40. 学名：*Ficus microcarpa* Linnaeus fil. cv. 'Golden Leaves'

和名：オウゴンガジュマル（キガジュマル）

方言名：オーゴンガジュマル

生活形：キ

用途：観賞用

観賞用として植える。

41. 学名：*Ficus septica* Burmann fil.

和名：オオバイヌビワ

方言名：カプルキ

生活形：キ

用途：建材、肥料

材を畑の小屋の柱に使うが弱い。葉を緑肥に使い、効果的と言う。稲穂に虫が付かず、米の粒がよく色もよい。白い樹液を出し、かぶれやすい。

42. 学名：*Ficus superba* Miquel var. *japonica* Miquel

和名：アコウ

方言名：アコーキ

生活形：キ

用途：薬用、飼料、肥料、遊び

葉を煎じて、打ち身の薬として用いる。葉をやぎの飼料にする。葉を緑肥にするが、現在ではほとんど化学肥料を使う。根の汁から鳥もちを作り、子供が鳥を捕って遊んだ。

43. 学名：*Ficus virgata* Reinwardt et Blume

和名：ハマイヌビワ

方言名：アイナク

生活形：キ

用途：飼料、肥料

葉をウシの飼料にする。葉を緑肥にするが、現在ではほとんど化学肥料を使う。

44. 学名：*Maclura cochinchinensis* (Lour.) Corner var. *gerontogea* (Sieb. et Zucc.) Ohashi

和名：カカツガユ

方言名：ユスボン、キユースボン

生活形：キ

用途：食用、染料、観賞用

実を生食した。泡盛に浸け、果実酒にする。染料（紫色）として、ハマオモトの茎で作った玩具であるセング風船を染めた（高原 1985）。庭木として植える。

45. 学名：*Morus australis* Poiret

和名：シマグワ（ヤマグワ）

方言名：クワキ、クワンギ

生活形：キ

用途：食用、薬用、飼料、肥料

実（ナニユンツ）を生食する。幹を突いて白い樹液（チ）を出し、傷やおできの薬とした。すり潰した葉を豚の油に混ぜ、体に塗り付け熱下しにした。戦時中は、葉を味噌汁に入れて食用にした。葉をやぎの飼料の他、蚕の飼料とした。葉を緑肥にするが、現在ではほとんど化学肥料を使う。

Urticaceae [イラクサ科]

46. 学名：*Boehmeria nippononivea* Koidzumi

和名：カラムシ

方言名：ブー

生活形：ファ

用途：繊維、儀礼

葉の表皮から繊維を採り（高原 1985）、着物を織る。魂（マープヤー）が体内から抜けるという症状の処方として、繊維で作った糸に結び目を7個作り、首に掛けさせる。以前は栽培していたが、現在では野生化し、厄介な雑草になっている。人頭税の時代（1637～1903）は、御用布の原料として管理された（小浜島民俗芸能保存会 1966）。

47. 学名：*Boehmeria nivea* (Linn.) Gaudichaud

和名：ナンバンカラムシ

方言名：ブー

生活形：ファ

用途：繊維、儀礼

葉の表皮から繊維を採り、着物を織る。魂が体内から抜けるという症状の処方として、繊維で

作った糸に結び目を7個作り、首に掛けさせるのはカラムシに同じ。以前は栽培していたが、現在では野生化し、厄介な雑草になっている。

花壇に植える。

Polygonaceae [タデ科]

48. 学名：*Persicaria chinensis* (Linn.) Nakai
 和名：ツルソバ (タイワンツルソバ)
 方言名：シメーサ
 生活形：カンザ／ファ
 用途：食用
 葉を食用にする。肌に触れるとイライラする。
49. 学名：*Persicaria tinctoria* (Aiton) Spach
 和名：アイ
 方言名：イエー、コハマアイ、アイ、シマアイ
 (天野 1979)
 生活形：ファ
 用途：染料
 草全体から着物を染めるための染料を採る。
50. 学名：*Rumex japonicus* Houttuyn
 和名：ギシギシ
 方言名：シメーラ
 生活形：ファ
 用途：食用
 葉を食用にする。

Nyctaginaceae [オシロイバナ科]

51. 学名：*Bougainvillea spectabilis* Willdenow
 和名：イカダカズラ
 方言名：シメーサ
 生活形：カンザ／ファ
 用途：観賞用
 生垣として植える。
52. 学名：*Mirabilis jalapa* Linnaeus
 和名：オシロイバナ
 方言名：オシロイバナ
 生活形：ファ
 用途：観賞用

Chenopodiaceae [アカザ科]

53. 学名：*Beta vulgaris* Linnaeus var. *crispa* Linnaeus
 和名：フダンソウ
 方言名：ソーキ
 生活形：ファ
 用途：食用
 新芽や皮を剥いた茎を、塩で揉んでおやつに食べる。畑の畔にあり、よく伸びる。
54. 学名：*Salsola komaovii* Ijin
 和名：オカヒジキ
 方言名：インミンツナ
 生活形：ファ
 用途：食用
 方言名の「イン」は「海」の意で、「浜にあるミズナ」を意味する。葉や茎を食用に供す。
55. 学名：*Spinacia oleracea* Linnaeus
 和名：ホウレンソウ
 方言名：ホーレンソー
 生活形：ファ
 用途：食用
 栽培し、食用に供す。

Amaranthaceae [ヒユ科]

56. 学名：*Achyranthes aspera* Linnaeus
 和名：ケイノコズチ (シロイノコズチ)
 方言名：ハイヌバ
 生活形：ファ
 用途：飼料
 ヤギの飼料にする。
57. 学名：*Achyranthes aspera* Linnaeus var. *rubrofusca* (Wight) Hooker fil.
 和名：ムラサキイノコズチ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

58. 学名：*Alternanthera sessilis* (Linn.) R. Brown ex
Roemer et Schultes
和名：ツルノゲイトウ
方言名：
生活形：ファ／カンザ
用途：

59. 学名：*Amaranthus gracilis* Desfontaines
和名：アオビユ（ホナガイヌビユ）
方言名：
生活形：ファ
用途：

60. 学名：*Amaranthus lividus* Linnaeus
和名：イヌビユ
方言名：
生活形：ファ
用途：
老草になると刺が出ると言うが、それはハリビ
ユのことであろう。厄介な雑草とされている。

61. 学名：*Amaranthus spinosus* Linnaeus
和名：ハリビユ
方言名：ピイスナ
生活形：ファ
用途：
葉を食用に供す。

Lauraceae [クスノキ科]

62. 学名：*Cinnamomum camphora* (Linn.) Presl
和名：クスノキ
方言名：クス
生活形：キ
用途：建材
西表島から伐り出し、主に建材にした。

63. 学名：*Cinnamomum doederleinii* Engler
和名：シバニッケイ
方言名：
生活形：キ
用途：

64. 学名：*Cinnamomum japonicum* Siebold ex Nees
和名：ヤブニッケイ
方言名：
生活形：キ
用途：

65. 学名：*Machilus thunbergii* Siebold ex Zuccarini
和名：タブノキ
方言名：タブキ
生活形：キ
用途：建材
西表島から伐り出し、主に建材にした。

Hernandiaceae [ハスノハギリ科]

66. 学名：*Hernandia nymphaeaefolia* Kubitzki
和名：ハスノハギリ
方言名：ウンダルキ
生活形：キ
用途：生活用材、防風林・防潮林
材は柔らかく、下駄や面を作った。防風林、防
潮林、護岸林にする。

Ranunculaceae [キンポウゲ科]

67. 学名：*Clematis grata* Wallich var. *ryukyuensis* Tamura
和名：リュウキュウボタンヅル
方言名：シツイカンザ
生活形：カンザ
用途：結束、儀礼
蔓を結束に用いる。旧暦10月のシツイ行事に、
柱に結び付けて魔除けとする習俗がある。

68. 学名：*Ranunculus japonicus* Thunberg
和名：ウマノアシガタ（キンポウゲ）
方言名：ウマヌプサファ
生活形：ファ
用途：薬用
方言名の「プサ」は「足」を意味する。葉の形
がウマの蹄（キンジャ）に似ている葉を絞った汁
を打撲の局所に塩と共に塗ったり、砂糖を混ぜて
飲む。搾かすで湿布をする。悪い血が1カ所に集

まってくる、カミソリで瀉血した。

用途：

69. 学名：*Ranunculus silerifolius* Léveillé var. *glaber* (H. Boissieu) Tamura

和名：キツネノボタン（イリオモテキンポウゲ）

方言名：

生活形：ファ

用途：

毒草と言われる（高原 1985）。

Menispermaceae [ツツラフジ科]

70. 学名：*Stephania japonica* (Thunb.) Miers var. *australis* Hatusima

和名：コバノハスノハカズラ

方言名：

生活形：カンザ

用途：

Piperaceae [コショウ科]

71. 学名：*Piper kadzura* (Chois.) Ohwi

和名：フウトウカズラ

方言名：

生活形：カンザ

用途：

72. 学名：*Piper retrofractum* Vahl

和名：ヒハツモドキ（サキシマフウトウカズラ）

方言名：ピパーツイ

生活形：カンザ

用途：食用、遊び、観賞用

葉と実を調味料にするために栽培するが、小浜島では戦後までは利用しなかった。若葉を笛（ビバーマ）にする。生垣にする。

Aristolochiaceae [ウマノスズクサ科]

73. 学名：*Aristolochia liukiensis* Hatusima

和名：リュウキュウウマノスズクサ

方言名：

生活形：カンザ

Theaceae [ツバキ科]

74. 学名：*Camellia japonica* Linnaeus

和名：ヤブツバキ

方言名：チィバキ、ツバキ

生活形：キ

用途：

75. 学名：*Eurya emarginata* (Thunb.) Makino

和名：ハマヒサカキ

方言名：スツタンダラン

生活形：キ

用途：

76. 学名：*Ternstroemia gymnanthera* (Wight et Arn.)

Beddome

和名：モッコク

方言名：インジョーギ

生活形：キ

用途：建材

西表島から伐り出し、建材にした。

Guttiferae [オトギリソウ科]

77. 学名：*Calophyllum inophyllum* Linnaeus

和名：テリハボク（ヤラブ）

方言名：ヤラブー

生活形：キ

用途：生活用材、防風林・防潮林、遊び

材を面や箆笥や太鼓に加工した。防風林にする。子供が硬くなった実をビー玉代わりにしたり、穴を穿ち笛にして遊んだ。根の汁から鳥もちを作り、鳥を捕って遊んだ。

78. 学名：*Garcinia subelliptica* Merrill

和名：フクギ

方言名：ブクイキ

生活形：キ

用途：建材、飼料、防風林・防潮林、染料、遊び

材は建材にする。葉をヤギの飼料にする。防風

林として庭に植える。樹皮から着物を染めるための黄色の染料を採る。葉は草履や手紙として、子供がままごとに使った。若葉は笛（ビペーマ）に加工した（高原 1980）。1952年のピー台風（キット台風）の際、島内のフクギの葉がまっ赤に枯れた。

Cruciferae [アブラナ科]

79. 学名: *Brassica juncea* Czern. & Crosson var. *integrifolia* Sinskaja

和名: タカナ

方言名: シマナー、シマナッパ (細崎集落)

生活形: ファ

用途: 食用

栽培し、塩揉みして食用に供す。

80. 学名: *Raphanus sativus* Linnaeus var. *hortensis* Baker

和名: ダイコン

方言名: ダイクニ

生活形: ファ

用途: 食用

栽培し、食用に供す。

81. 学名: *Raphanus sativus* Linnaeus var. *raphanistroides* (Makino) Makino

和名: ハマダイコン

方言名: ハマダイクニ

生活形: ファ

用途: 食用

食用に供す。

Hamamelidaceae [マンサク科]

82. 学名: *Distylium racemosum* Siebold et Zucarini

和名: イスノキ

方言名: ユスイキ

生活形: キ

用途: 建材

西表島から伐り出し、建材にした。

Crassulaceae [ベンケイソウ科]

83. 学名: *Kalanchoe beharensis* Drake Del Cast.

和名: センニョノマイ

方言名:

生活形: ファ

用途: 観賞用

観賞用として庭に植える。

84. 学名: *Kalanchoe pinnata* (Lam.) Persoon

和名: セイロンベンケイ

方言名: ソーキツ

生活形: ファ

用途: 食用、観賞用

葉を食用にする。観賞用として庭に植える。

85. 学名: *Kalanchoe tubiflora* (Harvey) Hamet

和名: キンチョウ

方言名:

生活形: ファ

用途: 観賞用

観賞用として庭に植える。

86. 学名: *Sedum bulbiferum* Makino

和名: コモチマンネングサ

方言名:

生活形: ファ

用途:

Saxifragaceae [ユキノシタ科]

87. 学名: *Pileostegia viburnoides* Hooker fil. et Thomson

和名: シマユキカズラ

方言名:

生活形: キ

用途:

Pittosporaceae [トベラ科]

88. 学名: *Pittosporum tobira* (Thunb.) Aiton

和名: トベラ、オキナワトベラ (リュウキュウトベラ)

方言名：トウペーラ

生活形：キ

用途：観賞用

観賞用として庭に植える。

Rosaceae [バラ科]

89. 学名：*Prunus campanulata* Maximowicz

和名：カンヒザクラ (ヒカンザクラ)

方言名：サクラ

生活形：キ

用途：観賞用

観賞用として庭に植える。

90. 学名：*Prunus persica* (Linn.) Batsch

和名：モモ

方言名：ムンママ

生活形：キ

用途：食用

実を生食する。ヤマモモに対して、「トームン」と呼ぶ (高原 1980)。

91. 学名：*Rosa chinensis* Jacquin

和名：コウシンバラ

方言名：チョーシン (天野 1979)

生活形：キ

用途：食用

観賞用として庭に植える。

92. 学名：*Rhaphiolepis indica* (Linn.) Lindley

和名：モッコクモドキ (オキナワシャリンバイ)

方言名：トゥカツィキ

生活形：キ

用途：燃料

お産の時に妊婦を温める薪にした (高原 1985)。

93. 学名：*Rubus croceacanthus* Léveillé

和名：オオバライチゴ (リュウキュウバライチゴ)

方言名：テーンツイ

生活形：ファ／カンザ

用途：食用

実を生食する。島の土地改良後はあまり見なくなった。

94. 学名：*Rubus parvifolius* Linnaeus

和名：ナワシロイチゴ

方言名：テーンツイ

生活形：ファ／カンザ

用途：食用

実を生食する。島の土地改良後はあまり見なくなった。

Leguminosae [マメ科]

95. 学名：*Acacia confusa* Merrill

和名：ソウシジュ

方言名：ヒョウシュジュ

生活形：キ

用途：防風林・防潮林

防風林や防潮林として植える。

96. 学名：*Albizia retusa* Benth

和名：ヤエヤマネムノキ

方言名：

生活形：キ

用途：防風林・防潮林

防風林や防潮林として植える。

97. 学名：*Alysicarpus vaginalis* (Linn.) A. P. de Candolle

和名：ササハギ (マルバダケハギ、ナガバササハギ)

方言名：

生活形：ファ

用途：

98. 学名：*Atylosia scarabaeoides* (Linn.) Benth

和名：ビロードヒメクズ

方言名：

生活形：ファ

用途：

99. 学名：*Caesalpinia crista* Linnaeus

和名：ナンテンカズラ

方言名：サラカーキ

生活形：カンザ

用途：

羽軸の刺が体に触れると厄介である。

和名：タマツナギ

方言名：

生活形：キ

用途：

100. 学名：*Canavalia cathartica* Thouars

和名：タカナタマメ

方言名：

生活形：カンザ

用途：

107. 学名：*Desmodium heterocarpon* (Linn.) A. P. de Candolle

和名：シバハギ

方言名：アカスツタンダラン

生活形：キ

用途：飼料

葉をやぎやウシの飼料にする。

101. 学名：*Canavalia lineata* (Thunb.) A. P. de Candolle

和名：ハマナタマメ

方言名：

生活形：カンザ

用途：

108. 学名：*Erythrina variegata* Linnaeus

和名：デイゴ

方言名：ズクイキ、ギンベンヌパナ

生活形：キ

用途：生活用材、その他

材は加工しやすく、獅子や面を作る（高原1985）。民謡「サクホウジラマ」や「ズリヌパナ」に謡われている。

102. 学名：*Crotalaria juncea* Linnaeus

和名：クロタラリア

方言名：

生活形：ファ

用途：

103. 学名：*Crotalaria uncinella* Lamarck

和名：エダウチタヌキマメ（ダエンタヌキマメ）

方言名：

生活形：ファ

用途：

109. 学名：*Flemingia prostrata* Roxburgh

和名：エノキマメ

方言名：

生活形：キ

用途：

104. 学名：*Crotalaria zanzibarica* Benth

和名：アフリカタヌキマメ

方言名：

生活形：ファ

用途：

110. 学名：*Glycine max* (Linn.) Merrill

和名：ダイズ

方言名：マミ

生活形：カンザ

用途：食用

栽培し、食用にする。豆を呉汁に入れて食用に供す。かます（カシガー）に入れて豆腐を作ることから、「トウフマミ」とも呼ぶ。

105. 学名：*Derris trifoliata* Loureiro

和名：シイノキカズラ

方言名：

生活形：キ／カンザ

用途：

111. 学名：*Indigofera tinctoria* Linnaeus

和名：タイワンコマツナギ（インドアイ）

方言名：イエー、アイ、ナンヨーアイ（天野1979）

生活形：キ

106. 学名：*Desmodium gangeticum* (Linn.) A. P. de Candolle

- 用途：染料
着物を染める染料（藍色）とする。
- 方言名：シヨンガネー
生活形：ファ
用途：
112. 学名：*Indigofera zollingeriana* Miquel
和名：リュウキュウコマツナギ
方言名：イエー、アイ
生活形：キ
用途：染料
着物を染める染料（藍色）とする。
117. 学名：*Mucuna membranacea* Hayata
和名：カシヨウクズマメ（ハネミノモダマ）
方言名：
生活形：カンザ
用途：
113. 学名：*Lespedeza cuneata* (Dum. - Cours.) G. Don
和名：メドハギ
方言名：マヤーブー
生活形：キ
用途：儀礼
旧暦7月13日から15日のお盆（ソーラ）の際に、茎を祖先に供えるお膳の箸にしたり（高原1980、1985）、水を入れた井にほうき状に束ねたものを浸け、これに大豆、米、粟、キビの茎、ナスの葉を供える。この慣習を「ミンツノコー」（「ミンツ」は「水」の意で、「コー」は供養）の意か）という。
118. 学名：*Ormocarpum cochinchinense* (Lour.) Merrill
和名：ハマセンナ（ハマエンジュ）
方言名：スツタンダランキ
生活形：キ
用途：肥料、飼料
葉を緑肥にするが、現在ではほとんど化学肥料を使う。葉はやぎの飼料にする。
119. 学名：*Phaseolus radiatus* Linnaeus
和名：リョクトウ、ヤエナリ、ブンドウ
方言名：クマミ
生活形：カンザ
用途：食用
豆を食用に供す。
114. 学名：*Leucaena leucocephala* (Lam.) de Wit
和名：ギンネム（ギンゴウカン）
方言名：ギンネム
生活形：キ
用途：肥料、飼料
葉を緑肥にするが、現在ではほとんど化学肥料を使う。葉をウマ、ヤギ、ウシの飼料にする。与えすぎると毛が抜けると言う。
120. 学名：*Pongamia pinnata* (Linn.) Pierre
和名：クロヨナ
方言名：ウカバキ
生活形：キ
用途：肥料
葉を緑肥にするが、現在ではほとんど化学肥料を使う。
115. 学名：*Maackia tashiroi* (Yatabe) Makino
和名：シマエンジュ
方言名：
生活形：キ
用途：肥料、防風林・防潮林
葉を緑肥にするが、現在ではほとんど化学肥料を使う。防風林や防潮林として植える。
121. 学名：*Rhynchosia minima* (Linn.) A. P. de Candolle
和名：ヒメノアズキ
方言名：
生活形：カンザ
用途：
116. 学名：*Mimosa pudica* Linnaeus
和名：オジギソウ
122. 学名：*Rhynchosia minima* (Linn.) A. P. de Candolle
和名：ツノクサネム（デンセイ）
方言名：

生活形：キ／ファ

用途：飼料、肥料

葉をウシやヤギの飼料にする。葉を緑肥にするが、現在ではほとんど化学肥料を使う。

方言名：アカマミ

生活形：カンザ

用途：食用

豆を食用に供す。

123. 学名：*Sophora tomentosa* Linnaeus

和名：イソフジ

方言名：ハモール

生活形：キ

用途：薬用、防風林・防潮林

葉を薬用にした。防風林や防潮林にする。

129. 学名：*Vigna unguiculata* Walpers var. *sesquipedalis*

Ohashi

和名：ジュウロクササゲ

方言名：フーローマミ

生活形：カンザ

用途：食用

豆を食用に供す。

124. 学名：*Trifolium repens* Linnaeus

和名：シロツメグサ

方言名：ミツバ

生活形：ファ

用途：

Oxalidaceae [カタバミ科]

130. 学名：*Oxalis corymbosa* A. P. de Candolle

和名：ムラサキカタバミ

方言名：カタバミ

生活形：ファ

用途：

125. 学名：*Uraria crinita* (Linn.) Desvaux

和名：フジボグサ

方言名：

生活形：ファ

用途：

Euphorbiaceae [トウダイグサ科]

131. 学名：*Acalypha australis* Linnaeus

和名：エノキグサ (アミガサソウ)

方言名：

生活形：ファ

用途：

126. 学名：*Vigna angularis* (Willd.) Ohwi et Ohashi

和名：アズキ

方言名：アカマミ

生活形：ファ

用途：食用

栽培し、豆を食用に供す。新芽は茹でて、醤油や味噌で和えたり、塩辛(カラス)の汁をかけて食する。

132. 学名：*Acalypha wilkesiana* Muell. -Arg. cv. Willincki.

和名：マルバアカリファ

方言名：アカリファ

生活形：キ

用途：観賞用

生垣として植える。

127. 学名：*Vigna luteola* (Jacq.) Benth

和名：ナガバハマアズキ (ナガバハマササゲ)

方言名：アカマミ

生活形：カンザ

用途：食用

豆を食用に供す。

133. 学名：*Antidesma pentandrum* (Blanco) Merrill var.

barbatum (Presl) Merrill

和名：コウトウヤマヒハツ (シマヤマヒツ)

方言名：ヤモーミ、キューズボン

生活形：キ

用途：食料、染料

128. 学名：*Vigna reflexo-pilosa* Hayata

和名：オオヤブツルアズキ (サカサハマササゲ)

実を生食したり、泡盛に浸け果実酒にする。実を食物を染める紫色の着色料にする。

134. 学名：*Bischofia javanica* Blume

和名：アカギ

方言名：アカンギ

生活形：キ

用途：建材

西表島から伐り出し、建材にした。

135. 学名：*Codiaeum variegatum* Blume

和名：クロトン、クロトンノキ、ヘンヨウボク

方言名：クロトン

生活形：キ

用途：観賞用

観賞用として、庭に植える。

136. 学名：*Croton hirtus* L'Hert

和名：クサクロトン

方言名：

生活形：ファ

用途：

137. 学名：*Euphorbia chamaesyce* Linnaeus

和名：ハイニシキシソウ

方言名：

生活形：ファ

用途：

138. 学名：*Euphorbia cyathophora* Murray

和名：ショウジョウソウ

方言名：

生活形：ファ

用途：

139. 学名：*Euphorbia hirta* Linnaeus

和名：シマニシキシソウ

方言名：

生活形：ファ

用途：薬用

薬用にしたと言う。

140. 学名：*Euphorbia hyssopifolia* Linnaeus

和名：セイタカオオニシキシソウ

方言名：

生活形：ファ

用途：薬用

薬用にしたと言う。

141. 学名：*Euphorbia tirucalli* Linnaeus

和名：ミドリサンゴ（アオサンゴ）

方言名：

生活形：キ／ファ

用途：

142. 学名：*Glochidion obovatum* Siebold et Zuccarini

和名：カンコノキ

方言名：

生活形：キ

用途：

143. 学名：*Jatropha hastata* Grisebach

和名：ホコバテイキンザクラ

方言名：

生活形：キ

用途：観賞用

観賞用として庭に植える。

144. 学名：*Manihot esculenta* Crantz

和名：キャッサバ

方言名：キーム

生活形：キ／ファ

用途：食用

栽培し、芋屑天ぷらにして食用に供す。

145. 学名：*Melanolepis multiglandulosa* (Bl.) Reichenbach
fil. et Zollinger

和名：ヤンバルアカメガシワ

方言名：ザカラ、カツアエキ

生活形：キ

用途：飼料、その他

葉をやぎやウシの飼料にする。葉を葉巻煙草に用いた。白蟻が付きやすいので、建材には不向きである。

146. 学名：*Phyllanthus urinaria* Linnaeus
和名：コミカンソウ
方言名：
生活形：ファ
用途：薬用
腹痛や下痢の時に草全体を煎じて飲む。

147. 学名：*Sapium sebiferum* Roxburghii
和名：ナンキンハゼ
方言名：
生活形：キ
用途：

Rutaceae [ミカン科]

148. 学名：*Fortunella margarita* Swingle
和名：ナガミキンカン
方言名：キンカン
生活形：キ
用途：食用、儀礼
実を生食する。葉を料理に用いる。実を神前に供える。33年忌の行事（ウーショーコー）の精進料理（リョング）に使う（高原 1980、1985）。

149. 学名：*Murraya paniculata* (Linn.) Jack
和名：ゲッキツ
方言名：ギキツィ
生活形：キ
用途：生活材、観賞用
材を印鑑や櫛に加工した。生垣として植える。

Meliaceae [センダン科]

150. 学名：*Melia azedarach* Linnaeus
和名：センダン
方言名：シンダン
生活形：キ
用途：薬用、生活材
樹皮を煎じて駆虫と胃の薬として用いる。葉を煎じて、風呂に入れておいた水を汗疹や虫刺されの薬に用いる。材を建材や箆筒に用いた。

Malpighiaceae [キントラノオ科]

151. 学名：*Malpighia glabra* Linnaeus
和名：アセローラ（バルバドスチェリー）
方言名：アセロラ
生活形：キ
用途：食用、観賞用
実を生食する。庭木として植える。

Anacardiaceae [ウルシ科]

152. 学名：*Mangifera indica* Linnaeus
和名：マンゴー
方言名：マンゴー
生活形：キ
用途：食用、観賞用
実を生食する。庭に植える。

153. 学名：*Rhus succedanea* Linnaeus
和名：ハゼノキ（リュウキュウハゼ）
方言名：ハジィキ
生活形：キ
用途：
体が木に触れると被れたり、斑点が出たりして痒い。方言名を「ハンサンキ」とも言い、皮膚が被れることを「ハンサンマッキ」と言う（高原 1980）。

Sapindaceae [ムクロジ科]

154. 学名：*Cardiospermum halicacabum* Linnaeus var. *microcarpum* (HBK) Blume
和名：コフウセンカズラ
方言名：ホーザキ、ドンドロンファー
生活形：カンザ
用途：
実がホウズキ状なので、「ホーザキ」という。また、草を振ると実の部分が鳴るので、「ドンドロンファー」と言う。

Balsaminaceae [ツリフネソウ科]

155. 学名：*Impatiens balsamina* Linnaeus
 和名：ホウセンカ
 方言名：ティンサグ、キンジャク
 生活形：ファ
 用途：薬用、染料
 茎の汁を傷薬や虫刺されの薬として患部に塗った。子供が花の汁で爪を染める（高原 1980、1985）。茎の汁を布の染色に使った。

Celastraceae [ニシキギ科]

156. 学名：*Euonymus japonicus* Thunberg
 和名：マサキ
 方言名：イハマヒ、イーペーマーペー
 生活形：キ
 用途：儀礼、観賞用
 枝葉は瓶に挿して神前に生ける。庭木や垣根として植える。
157. 学名：*Maytenus diversifolia* (Maxim.) Ding Hou
 和名：ツルマサキ、トゲマサキ、ハリウメツル
 方言名：マッコーキ
 生活形：キ
 用途：

Buxaceae [ツゲ科]

158. 学名：*Buxus liukiensis* (Makino) Makino
 和名：オキナワツゲ (ケナシオキナワツゲ)
 方言名：チンゲーマ、インカンキ
 生活形：キ
 用途：生活用材、観賞用
 垣根や庭木として植える。材を印鑑や櫛に加工した（高原 1980、1985）。

Rhamnaceae [クロウメモドキ科]

159. 学名：*Colubrina asiatica* (Linn.) Brongniart
 和名：ヤエヤマハマナツメ
 方言名：
 生活形：キ
 用途：

Vitaceae [ブドウ科]

160. 学名：*Ampelopsis brevipedunculata* (Maxim.) Trautvetter
 和名：テリハノブドウ (ノブドウ)
 方言名：ピキカナブ、カナブ
 生活形：カンザ
 用途：生活用材
 蔓は太く堅く強く、「カナブカンザ」と言う。牛や馬を追う鞭（カネースムトウ）や首輪にした（高原 1980）。方言名「ピキカナブ」の「ピキ」は「雄」の意。

161. 学名：*Cissus cactiformis* Gilg
 和名：ヒスイカク
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

162. 学名：*Vitis ficifolia* Bunge
 和名：エビヅル (リュウキュウガネブ)
 方言名：ミーカナブ、カナブ
 生活形：カンザ
 用途：
 方言名「ミーカナブ」の「ミー」は「雌」の意。

Malvaceae [アオイ科]

163. 学名：*Abelmoschus esculentus* (Linn.) Moench
 和名：オクラ
 方言名：オクラ
 生活形：ファ
 用途：食用
 栽培し、その実を食用に供す。

164. 学名：*Abelmoschus moschatus* Medicus
 和名：リュウキュウトロロアオイ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：
 草全体に粗毛を有し、触れると不快である。

165. 学名：*Abutilon indicum* (Linn.) Sweet subsp.
guieneense (Schumach.) Borssum
和名：台湾イチビ
方言名：
生活形：ファ
用途：

166. 学名：*Hibiscus makinoi* Jotani et H. Ohba
和名：サキシマフヨウ (フヨウ)
方言名：
生活形：キ
用途：観賞用
生垣として植える。

167. 学名：*Hibiscus rosa-sinensis* Linnaeus
和名：ブツソウゲ
方言名：グシヨウヌパナ、アカパナーマ
生活形：キ
用途：儀礼、観賞用
彼岸の時に生ける。生垣として植える。

168. 学名：*Hibiscus tiliaceus* Linnaeus
和名：オオハマボウ、オオバノハマボウ、シマハマボウ
方言名：ユナー、ユナンキ
生活形：キ
用途：生活用材、飼料、防風林・防潮林、遊び
木の皮から採った繊維を「カツィヌカー」と言う。皮を水田に埋めて腐蝕させて繊維だけを採り、それで縄を作り、凧紐(ユーリ)にしたり(高原 1980、1985)、綱にして牛や馬をつなぐ。葉をヤギの飼料にするが、あまり好まないと言う。防風林や防潮林にする。材は柔らかく、「イッパー」という玩具を作った。

169. 学名：*Malvastrum coromandelianum* (Linn.) Garcke
和名：エノキアオイ
方言名：
生活形：キ
用途：

170. 学名：*Sida rhombifolia* Linnaeus
和名：キンゴジカ
方言名：
生活形：キ
用途：

Sterculiaceae [アオギリ科]

171. 学名：*Firmiana simplex* (Linn.) W.F. Wight
和名：アオギリ
方言名：カツィヌカーキ
生活形：キ
用途：生活用材
「カツィヌカーキ」は繊維を採る木の意(天野 1979)。

Passifloraceae [トケイソウ科]

172. 学名：*Passiflora minima* Linnaeus
和名：ヒメトケイソウ
方言名：
生活形：カンザ
用途：

Thymelaeaceae [ジンチョウゲ科]

173. 学名：*Wikstroemia retusa* A. Gray
和名：アオガンピ
方言名：
生活形：キ
用途：

174. 学名：*Elaeagnus thunbergii* Servettaz
和名：台湾アキグミ (ウラギンツルグミ)
方言名：フビイル
生活形：キ
用途：食用
実を生食する。土地改良後はあまり見なくなった。

Caricaceae [パパイヤ科]

175. 学名：*Carica papaya* Linnaeus

和名：パパイヤ

方言名：マンジュマイ

生活形：キ

用途：食用、薬用

実と茎の芯を食用にする。若い実を煮ものや和え物に使う。熟れると鳥が食い荒らすので、果物としては食さない。実は胃腸や腎臓の薬になる。雄株（ピキマンジュマイ）と雌株（ミーマンジュマイ）がある。

栽培し、食用に供す。

180. 学名：*Cucurbita moschata* Duchesne var. *toonas*
Makino

和名：カボチャ（トウナス）

方言名：カプチャ

生活形：カンザ

用途：食用

栽培し、食用に供す。新芽を煮付けや天ぷらにする。

Cucurbitaceae [ウリ科]

176. 学名：*Benincasa cerifera* G. Savi

和名：トウガ

方言名：スブル

生活形：カンザ

用途：食用

実と茎の芯を食用にする。方言名の「スブル」は「頭」を意味する。

181. 学名：*Diplocyclos palmatus* C. Jeffrey

和名：オキナワスズメウリ

方言名：

生活形：カンザ

用途：

177. 学名：*Citrullus battich* Forskal

和名：スイカ

方言名：ヤマトウーラ

生活形：カンザ

用途：食用

栽培し、食用に供す。方言名の「ヤマトウーラ」は「大和瓜」の意。

182. 学名：*Lagenaria leucantha* Rusby var. *clavata*
Makino

和名：ユウガオ

方言名：スブル

生活形：カンザ

用途：食用、生活用材

栽培し、食用に供す。実を乾燥させて、瓶から水や醤油を汲み取る柄杓や容器（ニブ。大きなものはカナバルと言う）に加工した。

178. 学名：*Cucumis melo* Linnaeus var. *makuwa* Makino

和名：マクワウリ

方言名：ウルウ

生活形：カンザ

用途：食用

栽培し、食用に供す。

183. 学名：*Lagenaria siceraria* Standley cv. *Gourda*

和名：ヒョウタン

方言名：スブルナマ、ヒョータン

生活形：カンザ

用途：生活用材、観賞用

生垣として植える。実を乾燥させて、瓶から水や醤油をくみ取るひしゃくや容器（ニブ。大きなものはカナバルと言う）に加工した（高原1980、1985）。

179. 学名：*Cucumis sativus* Linnaeus var. *tuberculatus*
Gabajev

和名：キュウリ

方言名：キーウリィ

生活形：カンザ

用途：食用

184. 学名：*Luffa cylindrica* (Linn.) M. Roemer

和名：ヘチマ

方言名：ナベーラ

生活形：カンザ

用途：食用、薬用

栽培し、食用に供す。茎の汁を火傷の薬にする。

185. 学名：*Momordica charantia* Linnaeus var. *pavel*
Crantz

和名：ニガウリ、ツルレイシ

方言名：ゴーヤ

生活形：カンザ

用途：食用

栽培し、食用に供す。

Lythraceae [ミソハギ科]

186. 学名：*Cuphea hyssopifolia* H.B.K.

和名：メキシコハナヤナギ (クフェア)

方言名：

生活形：キ

用途：観賞用

鑑賞用として植える。

187. 学名：*Lagerstroemia indica* Linnaeus

和名：サルスベリ

方言名：サルスベリ

生活形：キ

用途：

188. 学名：*Pemphis acidula* J.R. ex & G. Forster

和名：ミズガンピ

方言名：

生活形：キ

用途：

Myrtaceae [フトモモ科]

189. 学名：*Psidium guajava* Linnaeus

和名：バンジロウ

方言名：バンシュル

生活形：キ

用途：食用、薬用

実を生食する。葉を乾燥させて煎じたものを血圧、腎臓の薬として用いる。土地改良後はあまり見なくなった。

190. 学名：*Syzygium buxifolium* Hooker et Arnott

和名：アデク (アディク)

方言名：

生活形：キ

用途：

Sonneratiaceae [ハマザクロ科]

191. 学名：*Sonneratia alba* J. Smith

和名：マヤプシキ (ハマザクロ)

方言名：マヤプセーキ

生活形：キ

用途：防風林・防潮林

木は防風林や防潮林や護岸林にする。

Punicaceae [ザクロ科]

192. 学名：*Punica granatum* Linnaeus

和名：ザクロ

方言名：ザクロ

生活形：キ

用途：食用、薬用、染料、観賞用

実を生食する。葉と実を煎じて整腸剤として用いる。実を染料 (オレンジ色に近い黄色) にする。庭木として植える。

Melastomataceae [ノボタン科]

193. 学名：*Melastoma candidum* D. Don

和名：ノボタン

方言名：

生活形：キ

用途：観賞用

鑑賞用として植える。

Rhizophoraceae [ヒルギ科]

194. 学名：*Bruguiera gymnorrhiza* (Linn.) Lamarck

和名：オヒルギ (アカバナヒルギ)

方言名：プセーキ、ピニキ

生活形：キ

用途：染料、防風林・防潮林

樹皮「カッチン」(タンニン材料カッチ)を黄色の染料として、着物やサバニの帆を染めた。現在でも着物を染める。防風林や防潮林や護岸林にする。

195. 学名：*Kandelia candel* (Linn.) Druce
 和名：メヒルギ (リュウキュウコウガイ)
 方言名：プセーキ、ピニキ
 生活形：キ
 用途：染料、防風林・防潮林、その他

樹皮(カッチン)はタンニン材料カッチであり、黄色の染料として、着物やサバニの帆を染めた。現在でも着物を染める。防風林や防潮林や護岸林にする。戦後、樹皮を紙(カプス)の原料として売った。

196. 学名：*Rhizophora stylosa* Griffith
 和名：ヤエヤマヒルギ
 方言名：プセーキ、ピニキ
 生活形：キ
 用途：染料、防風林・防潮林

樹皮(カッチン)はタンニン材料カッチであり、黄色の染料として、着物やサバニの帆を染めた。現在でも着物を染める。防風林や防潮林や護岸林にする。

Combretaceae [シクンシ科]

197. 学名：*Lumnitzera racemosa* Willdenow
 和名：ヒルギモドキ
 方言名：
 生活形：キ
 用途：

198. 学名：*Quisqualis indica* Linnaeus
 和名：インドシクンシ (シクンシ)
 方言名：
 生活形：カンザ
 用途：観賞用
 鑑賞用として庭に植える。

199. 学名：*Terminalia catappa* Linnaeus
 和名：モモタマナ (コバテイシ)
 方言名：クバデーサー
 生活形：キ
 用途：飼料
 葉をヤギの飼料にする。枝を張り、陰を作るのに適した (高原 1985)。

Araliaceae [ウコギ科]

200. 学名：*Dendropanax trifidus* (Thunb.) Makino
 和名：カクレミノ
 方言名：アサングルキ
 生活形：キ
 用途：
 方言名の「アサングルキ」は「軽い木」を意味する。高原 (1980) に、「ヤマヌ キー ヌ カラサー アサングルキー デムヌ」(山の木の軽いのはアサングルキーだわい) とある。

201. 学名：*Schefflera octophylla* Harms
 和名：フカノキ
 方言名：アサングルキ
 生活形：キ
 用途：生活用材
 材は、下駄に加工する。

Umbelliferae [セリ科]

202. 学名：*Angelica japonica* A. Gray
 和名：ハマウド
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

203. 学名：*Apium leptophyllum* F. Mueller et Benth
 和名：マツバゼリ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

204. 学名：*Centella asiatica* (Linn.) Urban

和名：ツボクサ

方言名：

生活形：ファ

用途：

205. 学名：*Coriandrum sativum* Linnaeus

和名：コエンドロ（コリアンダー）

方言名：クリアンダ

生活形：ファ

用途：薬用

栽培し、実を血圧や神経痛の薬にする。

206. 学名：*Daucus carota* Linnaeus

和名：ニンジン

方言名：キンザクニ、キンダイクニ

生活形：ファ

用途：食用

栽培し、食用に供す。

207. 学名：*Foeniculum vulgare* Miller

和名：ウイキョウ

方言名：ウッキョー、ニージンキョー

生活形：ファ

用途：食用、薬用

栽培し、食用に供す。葉と茎を煎じて飲んだり、米と炊いたり、アバサー（ハリセンボン）汁といった料理に入れる。虫下し、肝臓、鎮咳の薬として薬用にする。過去には、毎日のように食べた。

208. 学名：*Peucedanum japonica* Thunberg

和名：ボタンボウフウ（ボタンニンジン）

方言名：サクナ

生活形：ファ

用途：食用、薬用、飼料

新芽を刺身のつまにし、葉を雑炊に入れる。鎮咳や喘息や肝臓や胃の薬にする。血圧や熱下げる効用もある。乾燥させた草全体を煎じて飲んだり、泡盛や黒糖と混ぜたり、葉を料理に混ぜる。膏薬にして、打ち身や痛みにも効果がある。万病の薬という。ヤギの飼料にする。現在は農薬の影響を恐れ、自家栽培のものしか使わない。

Ericaceae [ツツジ科]

209. 学名：*Vaccinium wrightii* A. Gray

和名：ギイマ（ヒメシャシャンボ）

方言名：

生活形：キ

用途：

Myrsinaceae [ヤブコウジ科]

210. 学名：*Ardisia sieboldii* Miquel

和名：モクタチバナ

方言名：アクツイ

生活形：キ

用途：遊び

子供が実を竹鉄砲の玉にして遊んだ（高原 1985）。

Plumbaginaceae [イソマツ科]

211. 学名：*Limonium wrightii* (Hance) O. Kuntze var. *arbusculum* (Maxim.) Hara

和名：イソマツ、シロバナイソマツ、ウスジロイソマツ

方言名：カラスヌパイ

生活形：キ

用途：薬用

葉、茎、根を乾燥させ、煎じて痰や肝臓や腎臓の薬にする。過去に、台湾の人が採りに来ていた。

Sapotaceae [アカテツ科]

212. 学名：*Planchonella obovata* (R.Br.) Pierre

和名：アカテツ

方言名：ジャーマキ

生活形：キ

用途：燃料

方言名の「ジャーマ」は「乳」の意味する。樹皮から樹脂を分泌する。お産の時、妊婦を温めるために焚いたと言う（高原 1980）。

Ebenaceae [カキノキ科]

213. 学名：*Diospyros ferrea* (Willd.) Bakhuizen Sr. var. *buxifolia* (Rottb.) Bakhuizen Sr.
 和名：リュウキュウコクタン、ヤエヤマコクタン、クロキ
 方言名：クルキ、キダキ
 生活形：キ
 用途：生活用材、観賞用
 材は三線（サンシン）の柄に加工した。庭木として植える。

生活形：ファ
 用途：観賞用
 観賞用として庭に植える。

Symplocaceae [ハイノキ科]

214. 学名：*Symplocos confusa* Brand
 和名：ミヤマシロバイ（ルスン）
 方言名：ドウスヌ
 生活形：キ
 用途：建材
 西表島から伐り出し、建材にした。

218. 学名：*Cerbera manghas* Linnaeus
 和名：ミフクラギ（オキナワキョウチクトウ）
 方言名：ミーフクラキ
 生活形：キ
 用途：観賞用
 樹液は有毒で、目に入ると失明すると言われる。

Oleaceae [モクセイ科]

215. 学名：*Ligustrum liukiense* Koidzumi
 和名：オキナワイボタ、コバノオキナワイボタ、アマミイボタ
 方言名：
 生活形：キ
 用途：
 216. 学名：*Osmanthus insularis* Koidzumi
 和名：ナタオレノキ、シマモクセイ、ハチジョウモクセイ
 方言名：
 生活形：キ
 用途：

219. 学名：*Parsonia laevigata* (Moon) Alston
 和名：ホウライカガミ（パルソンカズラ）
 方言名：
 生活形：カンザ
 用途：
 220. 学名：*Trachelospermum gracilipes* J. D. Hooker var. *liukiense* (Hatusima) Kitamura
 和名：オキナワテイカカズラ、リュウキュウテイカカズラ、ムンテイカカズラ
 方言名：マサキカンザ
 生活形：カンザ
 用途：生活用材
 蔓で籠（ティル）を編んだ（高原 1985）。

Asclepiadaceae [ガガイモ科]

Apocynaceae [キョウチクトウ科]

217. 学名：*Catharanthus roseus* G. Don
 和名：ニチニチソウ
 方言名：ニチニチソー

221. 学名：*Asclepias curassavica* Linnaeus
 和名：トウワタ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：
 222. 学名：*Gomphocarpus frutescens* R. Brown
 和名：フウセントウワタ
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

223. 学名：*Tylophora tanakae* Maximowicz
和名：ツルモウリンカ
方言名：
生活形：ファ／カンザ
用途：

Rubiaceae [アカネ科]

224. 学名：*Guettarda speciosa* Linnaeus
和名：ハテルマギリ
方言名：
生活形：キ
用途：防風林・防潮林
防風林や防潮林にする。

225. 学名：*Ixora chinensis* Lamarck
和名：サンダンカ
方言名：サンダンカ
生活形：キ
用途：観賞用
観賞用として花壇に植える。

226. 学名：*Morinda citrifolia* Linnaeus
和名：ヤエヤマアオキ (ハテルマアオキ)
方言名：
生活形：キ
用途：

227. 学名：*Mussaenda parviflora* Miquel
和名：コンロンカ
方言名：
生活形：ファ／カンザ
用途：

228. 学名：*Paederia scandens* (Lour.) Merrill
和名：ヘクソカズラ、ヤイトバナ、サメハダヘクソカズラ、ハマサオトメカズラ
方言名：ピーファリカンザ
生活形：カンザ
用途：薬用
打ち身や捻挫の局所に、叩いた葉の付いた蔓を巻き付ける。

229. 学名：*Psychotria rubra* (Lour.) Poiret
和名：ボチョウジ (リュウキュウアオキ)
方言名：
生活形：キ
用途：

230. 学名：*Psychotria serpens* Linnaeus
和名：シラタマカズラ
方言名：
生活形：キ／カンザ
用途：

Convolvulaceae [ヒルガオ科]

231. 学名：*Ipomoea aquatica* Forskal
和名：ヨウサイ
方言名：ウンツアイ
生活形：ファ
用途：食用
若茎と葉は食用に供す (高原 1980)。

232. 学名：*Ipomoea batatas* (Linn.) Poiret
和名：サツマイモ
方言名：アコン
生活形：ファ／カンザ
用途：食用、飼料
栽培し、食用に供す。戦中、戦後、旱魃時の飢饉における重要な食料となった。葉と茎をヤギの飼料にする。方言名「アコン」は「アカイモ」の転化 (高原 1980)。

233. 学名：*Ipomoea indica* (Burm. fil.) Merrill
和名：ノアサガオ
方言名：アミフウリカンザ、ヤマカンザ
生活形：カンザ
用途：建材、結束、遊び
蔓を結束用として、ロープの代わりに用いた。家の柱と垂木を縛るのに用いた。子供が綱引きに用いて遊んだ。「ヤマカンザ」よりは「ハマカンザ」(グンバイヒルガオ)の方が強いと言う。

234. 学名：*Ipomoea lacunosa* Linnaeus
 和名：マメアサガオ
 方言名：
 生活形：カンザ
 用途：
 用途：建材、生活用材、飼料、防風林・防潮林
 材は建材にした。材は軽くて加工しやすい。細崎地区では「ミーカガンギ」と呼び、水中眼鏡（ミーカガン）や煙草入れ（フージョー）にした。葉をやぎの飼料にする。防潮林や砂防林にする。

235. 学名：*Ipomoea nil* (Linn.) Roth var. *japonica* Hallierf.
 和名：アサガオ
 方言名：アサガオ
 生活形：カンザ
 用途：
 240. 学名：*Carmona retusa* (Vahl) Masamune
 和名：フクマンギ
 方言名：
 生活形：キ
 用途：観賞用
 生垣として植える。

236. 学名：*Ipomoea pes-caprae* (Linn.) Sweet
 和名：ダンバイヒルガオ（ハウチワカズラ）
 方言名：ハマカンザ
 生活形：カンザ
 用途：結束、遊び
 蔓を結束に用いた。子供が綱引きに用いて遊んだ。「ヤマカンザ」（ノアサガオ）より丈夫だと言う。
 241. 学名：*Ehretia dichotoma* Blume
 和名：リュウキュウチシャノキ（ヤエヤマチシャノキ）
 方言名：
 生活形：キ
 用途：防風林・防潮林
 木は防風林や防潮林にする。

237. 学名：*Ipomoea sinensis* (Ders.) Choisy
 和名：ネコアサガオ、ガクアサガオ、ケアサガオ
 方言名：
 生活形：カンザ
 用途：
 242. 学名：*Ehretia dicksonii* Hance
 和名：マルバチシャノキ
 方言名：
 生活形：キ
 用途：生活用材、防風林・防潮林
 葉を木材を研磨するのに用いる。木は防風林や防潮林にする。

Polemoniaceae [ハナシノブ科]

238. 学名：*Phlox drummondii* Hooker
 和名：キキョウナデシコ、ヒメフロックス
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：観賞用
 観賞用として庭に植える。

Verbenaceae [クマツヅラ科]

243. 学名：*Avicennia marina* (Forsk.) Vierhapper
 和名：ヒルギダマシ
 方言名：
 生活形：キ
 用途：

Boraginaceae [ムラサキ科]

239. 学名：*Argusia argentia* (Linn. f.) H. Hein
 和名：モンパノキ（ハマムラサキノキ）
 方言名：スーキ、ソーキキ、ピキソーキ
 生活形：キ
 244. 学名：*Clerodendrum inerme* (Linn.) Gaertner
 和名：イボタクサギ
 方言名：ナファンキ、ミーナファン
 生活形：キ
 用途：飼料、防風林・防潮林

葉をウシの飼料にする。木は防潮林や砂防林にする。葉に悪臭がある。

245. 学名：*Lantana camera* Linnaeus

和名：トゲナシランタナ

方言名：

生活形：ファ

用途：観賞用

鑑賞用として導入したが、現在では野生化し厄介な雑草になりつつある。

246. 学名：*Lantana camera* Linnaeus cv. Flava

和名：キバナランタナ

方言名：

生活形：ファ

用途：観賞用

鑑賞用として導入したが、現在では野生化し厄介な雑草になりつつある。

247. 学名：*Lantana camera* Linnaeus var. *aculeata* (Linn.) Moldenke

和名：ランタナ (シチヘンゲ)

方言名：

生活形：ファ

用途：観賞用

鑑賞用として導入したが、現在では野生化し厄介な雑草になりつつある。

248. 学名：*Premna obtusifolia* R. Brown

和名：タイワンウオクサギ

方言名：ファイキ、ナファンキ

生活形：キ

用途：生活用材、儀礼、観賞用

材をイカの擬似餌に加工した。庭に植えると縁起が悪いと言う。防風林や防潮林にする。葉には悪臭がある。

249. 学名：*Stacytarpheta jamaicensis* (Linn.) Vahl

和名：フトボナガボソウ

方言名：

生活形：ファ

用途：

250. 学名：*Verbena brasiliensis* Vellozo

和名：アレチハナガサ

方言名：

生活形：ファ

用途：

戦前は見かけなかったと言う。

251. 学名：*Verbena officinalis* Linnaeus

和名：クマツヅラ

方言名：アケンツァンファ

生活形：ファ

用途：薬用

お産の時に妊婦に煎じて飲ませたり、浴びせたりした。現在でも、整腸剤や血圧を下げる薬として用いる。汗疹が出たとき、煎じて風呂に入れて入浴する。

252. 学名：*Verbena terena* Sprengel

和名：ヒメビジョザクラ

方言名：アケンツァンファ

生活形：ファ

用途：観賞用

鑑賞用として庭に植える。

253. 学名：*Vitex rotundifolia* Linnaeus fil.

和名：ハマゴウ

方言名：ピキナファン、ファイキ

生活形：キ

用途：防風林・防潮林

防風林や防潮林にする。葉には悪臭がある。

254. 学名：*Vitex trifolia* Linnaeus

和名：ミツバハマゴウ

方言名：ナファンキ、ファイキ

生活形：キ

用途：防風林・防潮林

防風林や防潮林にする。葉には悪臭がある。

Lamiaceae [シソ科]

255. 学名：*Hyptis bresipes* Poiteau

和名：ナントウイガクサ

方言名：
生活形：ファ
用途：

方言名：トマト、トモト（細崎地区）
生活形：キ
用途：食用
栽培し、食用に供する。

256. 学名：*Leonurus japonicus* Houttuyn
和名：メハジキ（ヤクモソウ）
方言名：
生活形：ファ
用途：

262. 学名：*Solanum ciliatum* Lamarck
和名：ニシキハリナスビ（ギンギンナスビ）
方言名：マンップコーマ
生活形：ファ／カンザ
用途：

257. 学名：*Mosla punctulata* (Gmel.) Nakai
和名：イヌコウジュ
方言名：
生活形：ファ
用途：

「マンップ」は「化け物」、「コーマ」は「卵」を意味する。実には毒があり、葉と茎の刺が体に刺さると抜けず化膿する。刺さった局所は魚の目になると言う。踏まない注意が必要。蔓自体が化け物だと言う。

258. 学名：*Perilla frutescens* Britton var. *acuta* Kudo
和名：シソ
方言名：シィシヨー
生活形：ファ
用途：食用
栽培し、食用に供す。

263. 学名：*Solanum indicum* Linnaeus
和名：テンジクナスビ
方言名：
生活形：ファ
用途：

Solanaceae [ナス科]

259. 学名：*Capsicum frutescens* Linnaeus
和名：キダチトウガラシ（シマトウガラシ）
方言名：グス
生活形：キ
用途：食用、観賞用
葉は料理に混ぜ、実は香辛料に供する。実を食物の防腐剤にする。鑑賞用として庭に植える。

264. 学名：*Solanum melongena* Linnaeus
和名：ナスビ
方言名：ナサピィ
生活形：ファ
用途：食用
栽培し、食用に供す。

260. 学名：*Lycium chinense* Miller
和名：クコ
方言名：クコ
生活形：キ
用途：薬用
根と葉を薬用にする。

265. 学名：*Solanum nigrum* Linnaeus
和名：イヌホオズキ
方言名：カナスピィ
生活形：ファ
用途：食用
葉を食用に供す。土地改良後はほとんど見られなくなった。

261. 学名：*Lycopersicon esculentum* Miller
和名：トマト

266. 学名：*Solanum nodiflorum* Jacquin
和名：テリミノイヌホオズキ
方言名：カナスピィ
生活形：ファ
用途：食用

黒紫色に熟した実を生食した。葉を食用に供す。土地改良後はほとんど見られなくなった。

267. 学名：*Solanum tuberosum* Linnaeus
和名：ジャガイモ
方言名：ジャガイモ、バレイショ
生活形：ファ
用途：食用
栽培し、食用に供す。

Pedaliaceae [ゴマ科]

268. 学名：*Sesamum orientale* Linnaeus
和名：ゴマ
方言名：グマ
生活形：ファ
用途：食用
栽培し、食用に供す。

Plantaginaceae [オオバコ科]

269. 学名：*Plantago asiatica* Linnaeus
和名：オオバコ (ケバノオオバコ)
方言名：ウンツヌブファ、ウンツヌブッフア
生活形：ファ
用途：食用、薬用
「ウンツヌブ (ブツ)」は「ウヤンチュヌブ (ネズミの尾)」の変化したもの。葉を食用にする。葉を火で炙り、おできや切り傷にあてる。乾燥した草全体を煎じて、鎮咳、喘息、利尿、整腸、血圧、心臓の薬にする。

Caprifoliaceae [スイカズラ科]

270. 学名：*Sambucus chinensis* Lindley var. *formosana* (Nakai) Hara
和名：台湾ソクズ、オガサワラソクズ、ソクズ
方言名：トウジ
生活形：ファ
用途：薬用
葉を月経不順の薬にした。

Goodeniaceae [クサトベラ科]

271. 学名：*Scaevola taccada* (Gaertn.) Roxburgh
和名：クサトベラ (テリハクサトベラ)
方言名：スーキ、ミーソーキ
生活形：キ
用途：防風林・防潮林
防風林や防潮林や砂防林にする。細崎地区では、葉を水中眼鏡 (ミーカガン) のレンズを拭くのに用いた。

Compositae [キク科]

272. 学名：*Ageratum conyzoides* Linnaeus
和名：カッコウアザミ
方言名：
生活形：ファ
用途：
273. 学名：*Artemisia jndica* Willdenow
和名：ニシヨモギ
方言名：フツヌハ、ヨモギ
生活形：ファ
用途：食用、薬用
若い葉や茎を料理に混ぜて食用に供す。また薬用として、絞った葉と茎の汁を黒砂糖に混ぜ、解熱や血圧を下げるのに用いる。ハブに咬まれた局所に葉をつけ焼く。万病の薬と言う。現在は農薬の害を避けて自家栽培のものしか使わない。
274. 学名：*Aster subulatus* Michaux
和名：ホウキギク
方言名：
生活形：ファ
用途：
戦後には見かけなかったと言う。
275. 学名：*Bidens pilosa* Linnaeus
和名：コセンダングサ
方言名：サルファ
生活形：ファ
用途：食用、薬用、飼料

若葉を小さく刻んで、モズク（スンズル）やニンジンと混ぜて天ぷらにした。若草を和え物にして食べた。葉を煎じて腹痛の薬として用いた。花が咲く前の草をやぎやウシの飼料にする。戦後に帰化した。方言名の「サル」は「くつつく」を意味する。戦後驚異的に増え、厄介な雑草である。

276. 学名：*Bidens pilosa* Linnaeus var. *minor* (Bl.) Scherff

和名：コシロノセンダングサ（シロバナセンダングサ）

方言名：サルファ

生活形：ファ

用途：食用、薬用、飼料

若葉を小さく刻んで、モズク（スンズル）やニンジンと混ぜて天ぷらにした。若草を和え物にして食べた。葉を煎じて腹痛の薬として用いた。花が咲く前の草をやぎやウシの飼料にする。戦後に帰化した。戦後驚異的に増え、厄介な雑草である。

277. 学名：*Bidens pilosa* Linnaeus var. *radiata* Schultz-Bip.

和名：シロノセンダングサ、タチアワユキセンダングサ、ハイアワユキセンダングサ

方言名：サルファ

生活形：ファ

用途：食用、薬用、飼料

若葉を小さく刻んで、モズク（スンズル）やニンジンと混ぜて天ぷらにした。若草を和え物にして食べた。葉を煎じて腹痛の薬として用いた。花が咲く前の草をやぎやウシの飼料にする。戦後に帰化した。戦後驚異的に増え、厄介な雑草である。

278. 学名：*Bidens tripatita* Linnaeus

和名：タウコギ

方言名：サルファ

生活形：ファ

用途：飼料

花が咲く前の草をやぎやウシの飼料にする。

279. 学名：*Chrysanthemum coronarium* Linnaeus

和名：シュンギク

方言名：シインジク

生活形：ファ

用途：食用

栽培し、食用に供す。

280. 学名：*Cirsium brevicaule* A. Gray var. *irumitiense* (Kitam.) Kitamura

和名：イリオモテアザミ

方言名：ハマゲンボー

生活形：ファ

用途：食用、薬用

葉と茎を、料理に混ぜ食用にする。根を腎臓、肝臓の薬として用いる。

281. 学名：*Conyza bonariensis* (Linn.) Cronquist

和名：アレチノギク

方言名：

生活形：ファ

用途：

戦前には見かけなかったと言う。

282. 学名：*Conyza sumatrensis* (Retz.) Walker

和名：オオアレチノギク

方言名：

生活形：ファ

用途：

戦前には見かけなかったと言う。

283. 学名：*Cosmos bipinnatus* Cavanilles

和名：コスモス

方言名：コスモス

生活形：ファ

用途：観賞用

鑑賞用として庭に植える。

284. 学名：*Cosmos sulphureus* Cavanilles

和名：キバナコスモス

方言名：コスモス

生活形：ファ

用途：観賞用

鑑賞用として庭に植える。

285. 学名：*Crepidiastrum lanceolatum* (Houtt.) Nakai
和名：ホソバワダン、ダイトウワダン、ハマナレン
方言名：ンガナ
生活形：ファ
用途：食用、薬用
葉と茎を小さく刻んで、和え物や肉と汁に入れて食用に供す。胃や腸や便通の薬となり、癌にもかからないと言う。
286. 学名：*Crossostephium chinense* (Linn.) Makino
和名：モクビャッコウ
方言名：
生活形：キ
用途：観賞用
観賞用として庭に植える。
287. 学名：*Eclipta prostrata* (Linn.) Linnaeus
和名：タカサブロウ
方言名：
生活形：ファ
用途：
288. 学名：*Emilia sonchifolia* (Linn.) A. P. de Candolle
和名：ウスベニニガナ
方言名：
生活形：ファ
用途：
289. 学名：*Farufugium japonicum* (Linn. fil.) Kitamura
和名：ツワブキ
方言名：シィパーマ
生活形：ファ
用途：食用
茎を食用に供す。
290. 学名：*Gynura bicolor* (Willd.) A. P. de Candolle
和名：スイゼンジナ
方言名：パンダマ
生活形：ファ
用途：食用、薬用
葉を雑炊に入れて食用に供す。葉を薬用として、産後の妊婦に食べさせた。
291. 学名：*Helianthus annuus* Linnaeus
和名：ヒマワリ
方言名：ヒマワリ
生活形：ファ
用途：観賞用
鑑賞用として植える。
292. 学名：*Ixeris polycephala* Cassini
和名：ノニガナ
方言名：ノーンガナ
生活形：ファ
用途：食用
葉と茎を食用に供す。
293. 学名：*Lactuca indica* Linnaeus
和名：アキノノゲシ (ホソバアキノノゲシ)
方言名：トゥノーラ
生活形：ファ
用途：食用、薬用
葉を料理に混ぜ食用、及び胃の薬として用いる。
294. 学名：*Lactuca indica* Linnaeus var. *dracoglossa*
Kitamura
和名：リュウゼツサイ
方言名：ウサギヌミミ (細崎地区)
生活形：ファ
用途：食用、飼料
栽培し、食用に供す。葉をウサギやヤギの飼料にする。葉の形がウサギの耳に似ることから、細崎地区では「ウサギヌミミ」と呼ばれる。
295. 学名：*Solidago altissima* Linnaeus
和名：セイタカアワダチソウ
方言名：
生活形：ファ
用途：
戦後に帰化した雑草である。本土のように勢力的に繁殖していない。
296. 学名：*Sonchus oleraceus* Linnaeus
和名：ハルノノゲシ (ノゲシ)
方言名：フクナ

生活形：フア
 用途：食用、飼料
 茹でて和え物として食用にしたり、ウサギやヤギの飼料にする。

297. 学名：*Synedrella nodiflora* (Linn.) Gaertner
 和名：フシザキソウ
 方言名：サルファ
 生活形：フア
 用途：飼料
 ヤギの飼料にする。

298. 学名：*Taraxacum officinale* Weber
 和名：セイヨウタンポポ
 方言名：タンポポ
 生活形：フア
 用途：飼料
 葉と茎はヤギの飼料にする。

299. 学名：*Vernonia cinerea* (Linn.) Lessing
 和名：ムラサキムカシヨモギ (ヤンバルヒゴタイ)
 方言名：
 生活形：フア
 用途：飼料
 葉と茎はヤギの飼料にする。

300. 学名：*Wedelia chinensis* Merrill
 和名：クマノギク
 方言名：
 生活形：フア
 用途：
 戦前には見かけなかったと言う。

301. 学名：*Wedelia prostrata* (Hook. et Arn.) Hemsley
 var. *robusta* Makino
 和名：オオハマグルマ
 方言名：
 生活形：フア
 用途：
 戦前には見かけなかったと言う。

302. 学名：*Wedelia trilobata* Hitchcock
 和名：アメリカハマグルマ
 方言名：
 生活形：フア
 用途：
 戦前には見かけなかったと言う。

303. 学名：*Youngia japonica* (Linn.) A. P. de Candolle
 和名：オニタビラコ
 方言名：マーオーハー
 生活形：フア
 用途：飼料
 葉と茎をヤギの飼料にする。戦前には見かけなかったと言う。

Monocotyledoneae [単子葉植物]

Alismataceae [オモダカ科]

304. 学名：*Sagittaria trifolia* Linnaeus
 和名：オモダカ
 方言名：ターグサ
 生活形：フア
 用途：

Hydrocharitaceae [トチカガミ科]

305. 学名：*Enhalus acoroides* (Linn. fil.) Richard ex Steudel
 和名：ウミショウブ
 方言名：クブグサ、ジャングサ
 生活形：フア
 用途：
 ジュゴン (ジャン) が食べると言う。

306. 学名：*Ottealia alismoides* (Linn.) Persoon
 和名：ミズオオバコ
 方言名：タークブ
 生活形：フア
 用途：食用
 葉を食用に供す (高原 1985)。

307. 学名：*Thalassia hemprichii* (Ehrenb.) Ascherson

和名：リュウキュウスガモ

方言名：

生活形：ファ

用途：

用途：食用

葉を食用に供す。

Liliaceae [ユリ科]

308. 学名：*Allium cepa* Linnaeus

和名：タマネギ

方言名：タマネギ

生活形：ファ

用途：食用

栽培し、食用に供す。

313. 学名：*Allium sativum* Linnaeus

和名：ニンニク

方言名：ピール

生活形：ファ

用途：食用

栽培し、食用に供す。風邪の薬として、ピール酒を飲んだ。

309. 学名：*Allium chinense* G. Don

和名：ラッキョウ

方言名：イラッキョー、ダッキョー、ラッキョー

生活形：ファ

用途：食用

栽培し、酢づけにし食用に供す。

314. 学名：*Allium tuberosum* Linnaeus

和名：ニラ

方言名：ビーラ

生活形：ファ

用途：食用、薬用

栽培し、食用に供す。葉の汁を切り傷の薬にする。

310. 学名：*Allium fistulosum* Linnaeus

和名：ネギ

方言名：シィピサネギ、ニギ、ネギ

生活形：ファ

用途：食用

栽培し、食用に供す。

315. 学名：*Aloe arborescens* Miller

和名：キダチロカイ

方言名：ドウガイ、アロイ、アロエ

生活形：ファ

用途：薬用

葉の汁を、打ち身や傷や火傷の薬として用いる。万病の薬という。

311. 学名：*Allium fistulosum* Linnaeus var. *caespitosum*

Makino

和名：ワケギ

方言名：シィピサ

生活形：ファ

用途：食用、薬用

栽培し、食用に供す。葉を汁に入れて食すると目の薬になると言う。

316. 学名：*Aloe vera* Linnaeus var. *chinensis* Berger

和名：トウロカイ

方言名：ツカサヌアバ

生活形：ファ

用途：薬用、観賞用

鑑賞用として庭に植える。葉が厚く中に油のような水を含んでいる。その水油を傷に付けると傷が治る（高原 1980）。

312. 学名：*Allium grayi* Regel

和名：ノビル

方言名：ヌービラ

生活形：ファ

317. 学名：*Aspidistra elatior* Blume cv. *Variegata*

和名：ファイリハラン

方言名：

生活形：ファ

用途：観賞用

鑑賞用として庭に植える。

318. 学名：*Hemerocallis fulva* Linnaeus var. *sempervirens*
 (Araki) M. Hotta
 和名：アキノワスレナグサ
 方言名：パンソー
 生活形：ファ
 用途：食用、薬用
 花と茎と葉は料理に混ぜ、食用に供す。煎じて
 不眠症の薬にする。万病の薬と言う。

319. 学名：*Liriope minor* (Max.) Makino
 和名：ヒメヤブラン
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：薬用
 根の汁は、喘息や鎮咳の薬として煎じて飲む。

320. 学名：*Liriope muscari* (Decne.) Bailey
 和名：ヤブラン
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：

321. 学名：*Lilium longiflorum* Thunberg
 和名：テッポウユリ
 方言名：ユイ
 生活形：ファ
 用途：
 民謡「サクホウジラマ」に「ユリヌパナ」と記
 載されている。

322. 学名：*Ophiopogon japonicus* (Thunb.) Ker-Gawler
 和名：ジャノヒゲ (リュウノヒゲ)
 方言名：ジャノヒゲ、リュウノヒゲ
 生活形：ファ
 用途：観賞用
 花壇の縁取りとして植える。他の草を寄せ付け
 ない。ハブが寄らないとも言う。

323. 学名：*Sansevieria nilotica* Baker
 和名：チトセラン
 方言名：トゥラノオ
 生活形：ファ

用途：儀礼
 東に向けて床の間や神前に生ける。

324. 学名：*Sansevieria trifasciata* Prain cv. 'Laurentii'
 和名：フクリンチトセラン (サンセベリア)
 方言名：トゥラノオ
 生活形：ファ
 用途：儀礼
 東に向けて床の間や神前に生ける。

325. 学名：*Smilax china* Linnaeus var. *kuru* Sakaguchi
 ex Yamamoto
 和名：オキナワサルトリイバラ
 方言名：サラカーキ
 生活形：カンザ
 用途：

Amaryllidaceae [ヒガンバナ科]

326. 学名：*Agave americana* Linnaeus
 和名：アオノリュウゼツラン
 方言名：トゥンビャン
 生活形：ファ
 用途：衣料
 真っ白の繊維が採れ、それで着物を織った。

327. 学名：*Crinum asiaticum* Linnaeus
 和名：ハマオモト、ハマユウ、台湾ンハマオモト
 方言名：セング
 生活形：ファ
 用途：遊び
 祝の日にハマオモトの茎の膨らんだ箇所を縦に
 割って、赤飯を載せる皿にした。2、3人でモツ
 コを持って採りに行った。茎の膨らんだ箇所に、
 破けないように唾を吹きかけながら皮を剥き、膨
 らんだ箇所の先を括って空気を吹き入れ「セング
 風船」を作る。これをカカツガユ (ユスボン) の
 実で紫色に染めたりした。ピキセングとミーセン
 グがあり、ミーセングの方が上等で破れにくい。
 女の子の遊びである。

328. 学名：*Hippeastrum × hybridum* Hortte

和名：アマリリス

方言名：

生活形：ファ

用途：観賞用

観賞用として植える。

329. 学名：*Lycoris radiata* Herbert

和名：ヒガンバナ

方言名：ヒガンバナ

生活形：ファ

用途：

330. 学名：*Zephyranthes candida* Herbert

和名：タマスダレ

方言名：

生活形：ファ

用途：観賞用

観賞用として植える。

331. 学名：*Zephyranthes grandiflora* Lindley

和名：サフランモドキ

方言名：

生活形：ファ

用途：観賞用

鑑賞用として植える。

Dioscoreaceae [ヤマノイモ科]

332. 学名：*Dioscorea japonica* Thunberg

和名：ヤマノイモ

方言名：ヤマカヨーン

生活形：カンザ

用途：食用

根茎を食用に供す。

333. 学名：*Dioscorea alata* Linnaeus

和名：ダイジョ

方言名：ヤマウン

生活形：カンザ

用途：食用

庭の一部で栽培し、根茎を煮物にして食用に供

す。

334. 学名：*Dioscorea cirrhosa* Loureiro

和名：ソメモノイモ

方言名：クール

生活形：カンザ

用途：染料

塊根から紫色の染料を採り、赤縞布の着物を染める。クールゾメ（コーロゾメ）と呼ばれる（高原 1980）。

335. 学名：*Dioscorea pseudo-japonica* Hayata

和名：キルンヤマノイモ

方言名：カヨーン

生活形：カンザ

用途：食用

根茎を食用に供す。

336. 学名：*Dioscorea esculenta* Burkill var. *spinosa* Prain & Burkill

和名：ハリイモ

方言名：ナリイウン

生活形：カンザ

用途：食用

根茎を食用に供す。ナリイウンは「むかごのなる山芋」の意（高原 1980）。

Iridaceae [アヤメ科]

337. 学名：*Belamcanda chinensis* (Linn.) A. P. de Candolle

和名：ヒオウギ

方言名：

生活形：ファ

用途：

338. 学名：*Gladiolus gandavensis* van Houtte

和名：グラジオラス（トウショウブ）

方言名：グラジオラス

生活形：ファ

用途：観賞用

鑑賞用として植える。厄介な雑草になりつつあ

る。

339. 学名：*Iris laevigata* Fischer

和名：カキツバタ

方言名：

生活形：ファ

用途：

Juncaceae [イグサ科]

340. 学名：*Juncus effusus* Linnaeus var. *decipiens*

Buchenau

和名：イグサ、イ、トウシンソウ

方言名：ビー、ピラン

生活形：ファ

用途：生活用材、飼料

ムシロ（ビームス）を編むのに使う。葉をやぎの飼料にする。

Commelinaceae [ツユクサ科]

341. 学名：*Commelina diffusa* Burman fil.

和名：シマツユクサ（ハダカツユクサ）

方言名：ツユクサ、ツクサ

生活形：ファ

用途：食用

葉を呉汁に入れて食用にする。どんどん増えるので厄介な植物である。

342. 学名：*Zebrina pendula* Schnizl.

和名：ハカタガラクサ

方言名：

生活形：カンザ

用途：観賞用

観賞用に植える。

Flagellariaceae [トウツルモドキ科]

343. 学名：*Flagellaria indica* Linnaeus

和名：トウツルモドキ

方言名：コーンツイ

生活形：カンザ

用途：生活用材、結束

観賞用に植える。竹は皮を剥がなければならぬが、トウツルモドキは加工がしやすく、籠（ティル）やざる（ソーキ）を編むのに用いた。台風時に茅葺き屋根を絡んだり、垂木を縛ったり結束用として用いた（高原 1980、1985）。

Gramineae [イネ科]

344. 学名：*Arundo donax* Linnaeus

和名：ダンチク、ムラサキダンチク、タカサゴチク

方言名：ダディゴ

生活形：ファ

用途：

345. 学名：*Bambusa glaucescens* (Lamarck) Siebold ex Munro

和名：ホウライチク（オキナワダケ）

方言名：ンガンダキ

生活形：キ／タキ

用途：食用、建材、燃料、生活用材、防風林・防潮林、儀礼、遊び、その他

タケノコ（タキヌフキイ）を食用にする。中城（ひんぷん）を作る建材として用いる。燃料として利用したり、束ねたものを島内での物々交換に用いた。籠やざるや鳥籠を編むのにも用いた。細崎地区では、カツオの餌（ジャコ）を捕るための籠（ジャコグワー）を編んだり、銚（イーガン）の柄にした。親が娘が嫁ぐ折りに、嫁ぎ先で飢えたり苦労したりしないようにという願いを込めて持たせた。子供が茎で笛や水鉄砲を作った（高原 1985）。

346. 学名：*Bambusa vulgaris* Schrad.

和名：ダイサンチク

方言名：マーダキ

生活形：キ／タキ

用途：食用、建材、燃料、生活用材、防風林・防潮林、儀礼、遊び、その他

タケノコを食用にする。中城を作る建材として用いる。燃料として利用したり、束ねたものを島

内での物々交換に用いた。鯉幟の竿として石垣島に持って行って売った。親が娘が嫁ぐ折りに、嫁ぎ先で飢えたり苦勞したりしないようにと言う願いを込めて持たせた。

347. 学名：*Brachiaria mutica* Stapf

和名：パラグラス

方言名：

生活形：ファ

用途：

戦前には見かけなかったと言う。

348. 学名：*Cenchrus brownii* Roemer et Schultes

和名：クリノイガ

方言名：ハテルマグサ

生活形：ファ

用途：

波照間島に多く生えるということからこの名がある。戦前には見かけなかったと言う。

349. 学名：*Chloris barbata* Swartz

和名：ムラサキヒゲシバ (シマヒゲシバ)

方言名：ガヤナ

生活形：ファ

用途：飼料

ウシの飼料にする。戦前には見かけなかったと言う。

350. 学名：*Chloris gayana* Kunth

和名：アフリカヒゲシバ (ローズグラス)

方言名：ガヤナ

生活形：ファ

用途：飼料

ウシの飼料にする。戦前には見かけなかったと言う。

351. 学名：*Coix lacryma-jobi* Linnaeus

和名：ジュズダマ

方言名：シェンダキ

生活形：ファ

用途：薬用、遊び

薬用にする。実を「タキンダマ」と言って、糸

に通して女の子が手や首に飾った (高原 1980、1985)。

352. 学名：*Cynodon dactylon* (Linn.) Persoon

和名：ギョウギシバ

方言名：ガヤナ

生活形：ファ

用途：

353. 学名：*Dactyloctenium aegyptium* (Linn.) Beauvois

和名：タツノツメガヤ

方言名：ガヤナ

生活形：ファ

用途：遊び

子供がおもちゃとして花序をくっ付け合って遊ぶ。戦前には見かけなかったと言う。

354. 学名：*Digitaria ciliaris* (Retz.) Koeler

和名：メヒシバ

方言名：ガヤナ

生活形：ファ

用途：

355. 学名：*Digitaria violascens* Link

和名：アキメヒシバ

方言名：ガヤナ

生活形：ファ

用途：

356. 学名：*Eleusine indica* (Linn.) Gaertner

和名：オヒシバ (オヒジワ)

方言名：ガヤナ

生活形：ファ

用途：

357. 学名：*Hemarthria compressa* (Linn. f.) R. Brown

和名：コバノウシノシツペイ

方言名：

生活形：ファ

用途：

358. 学名：*Imperata cylindrica* (Linn.) Beauvois subsp. *koenigii* (Retz.) Masamune et Yanagita
 和名：チガヤ
 方言名：ガヤ
 生活形：ファ
 用途：食用、薬用、建材、燃料、飼料
 葉を煎じて、お茶の代わりにする。煎じた葉は腎臓の葉になる。葉を屋根を葺くのに使った。10年間もった。台風のために屋根を葺き直した。葉を燃料にする。よく燃えるが力がない。葉をウシの飼料にする。
359. 学名：*Miscanthus sinensis* Andersson
 和名：ススキ
 方言名：ユシキキ
 生活形：ファ
 用途：飼料、儀礼
 若葉をウシの飼料にする。シツイ行事に、神前や床の間に供える。
360. 学名：*Oryza sativa* Linnaeus
 和名：イネ
 方言名：イニ、マイ
 生活形：ファ
 用途：食用、儀礼
 栽培し、食用に供す。神前に供えたり、儀礼に用いる。
361. 学名：*Oryza sativa* Linnaeus cv. *Glatinosa*
 和名：モチゴメ
 方言名：ムチマイ
 生活形：ファ
 用途：食用、儀礼
 栽培し、食用に供す。神前に供えたり、儀礼に用いる。
362. 学名：*Panicum bisulcatum* Thunberg
 和名：ヌカキビ
 方言名：ガヤナ
 生活形：ファ
 用途：
363. 学名：*Panicum repens* Linnaeus
 和名：ハイキビ
 方言名：ノーンザキイス
 生活形：ファ
 用途：飼料
 葉と茎をウシやウマの飼料にする。センダングサが帰化するまでは、根が強くこれが畑に生える最も厄介な雑草であった。
364. 学名：*Pharagmites japonica* Steudel
 和名：ツルヨシ (ジシバリ)
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：
365. 学名：*Phyllostachys aurea* A. et C. Rivière
 和名：ホテイチク
 方言名：クサンダキ
 生活形：ファ/タキ
 用途：食用、建材、燃料、生活用材、防風林・防潮林、儀礼、遊び、その他
 タケノコを食用にする。中城を作る建材として用いる。燃料として利用したり、束ねたものを島内での物々交換に用いた。親が娘が嫁ぐ折りに、嫁ぎ先で飢えたり苦労したりしないようにと言う願いを込めて持たせた。茎で釣竿を作る。竹ぼうきや七夕用に利用した (高原 1985)。
366. 学名：*Pleiblastus hindsii* Nakai
 和名：カンザンチク
 方言名：ダイミョーダキ、コバマダキ
 生活形：ファ/タキ
 用途：食用、建材、燃料、生活用材、防風林・防潮林、儀礼、遊び、その他
 タケノコを食用にする。燃料として利用したり、束ねたものを島内での物々交換に用いた。茎で笛や釣竿を作る。建材として、棧 (ユツル) に使うことから「ユツルダケ」、「ユツンダキ」という。船材 (釘) にも利用する。30～40年のもった。親が娘が嫁ぐ折りに、嫁ぎ先で飢えたり苦労したりしないようにと言う願いを込めて持たせた。釣竿用に内地に輸出した。笛を作るのに適し

ている（高原 1985）。

367. 学名：*Saccharum officinarum* Linnaeus
和名：サトウキビ
方言名：シンンジャ
生活形：ファ
用途：食用、飼料
栽培し、食用に供す。葉をウシの飼料にする。
368. 学名：*Setaria italica* (Linn.) P. Beauvois
和名：アワ
方言名：アー
生活形：ファ
用途：食用
栽培し、食用に供す。
369. 学名：*Setaria pallide-fusca* (Schum.) O. Stapf et C. E. Hubbard
和名：コツブキンエノコロ
方言名：
生活形：ファ
用途：
370. 学名：*Setaria viridis* (Linn.) P. Beauvois subsp. *pachystachys* (Fr. et Sav.) Masamune et Yanagita
和名：ハマエノコロ
方言名：
生活形：ファ
用途：
371. 学名：*Spinifex littoreus* (Bruman f.) Merrill
和名：ツキイゲ（ハリハمامギ）
方言名：
生活形：ファ
用途：
372. 学名：*Sporobolus fertilis* (Steudel) W. D. Clayton
和名：ネズミノオ（リュウキュウネズミノオ）
方言名：
生活形：ファ
用途：

373. 学名：*Sporobolus virginicus* (Linn.) Kunth
和名：ソナレシバ
方言名：
生活形：ファ
用途：飼料
牧草の一つとして重要である。
374. 学名：*Triticum aestivum* Linnaeus
和名：コムギ
方言名：ムン
生活形：ファ
用途：食用
栽培し、食用に供す。穂を子供がガムのように噛んだり、臼で挽いて粉にしたものを湯で練ったり、砂糖と混ぜたりして食す。麦味噌を作る。
375. 学名：*Zoysia matrella* (Linn.) Merrill var. *pacifica* P. C. Goudswaard
和名：コウライシバ
方言名：ハマシバ
生活形：ファ
用途：飼料、遊び
この実をウマに食べさせるとよく走る。子供が穂を転がして遊んだ。

Palmae [ヤシ科]

376. 学名：*Areca cathecu* Linnaeus
和名：ビンロウ
方言名：
生活形：キ
用途：観賞用
鑑賞用として庭に植える。
377. 学名：*Arenga tremula* (Blanco) Beccari
和名：コミノクロツグ
方言名：マーニー
生活形：キ
用途：生活用材、防風林・防潮林・遊び
葉鞘でほうきを作ったり、葉鞘から採った黒い繊維で織を編んだ。子供が葉でそりを作ったり、葉柄で刀を作て遊ぶ。女の子は、実に糸を通して

首飾りを作った。防風林として植える。

378. 学名：*Livistona chinensis* (Jaquin) R. Brown ex
Martius var. *subglobosa* (Hassakal) Beccari

和名：ビロウ

方言名：クバ、クファ

生活形：キ

用途：食用、生活用材、儀礼

新芽を食用にする。葉は団扇、釣瓶、クバ傘に加工する（高原 1985）。神が宿る神聖な木とされ、葉の上に座ってはいけないと言う（村武 1965）。

379. 学名：*Mascarena lagenicaulis* L. H. Bailey

和名：トックリヤシ

方言名：

生活形：キ

用途：観賞用

鑑賞用として庭に植える。

380. 学名：*Rhapis humilis* Blume

和名：シュロチク

方言名：

生活形：キ

用途：観賞用

鑑賞用として庭に植える。

381. 学名：*Thachycarpus fortunei* H. Wendland

和名：シュロ

方言名：シュール

生活形：キ

用途：生活用材

葉鞘から採った繊維で縄を編んだり（高原 1985）、蓑を作ったりした。

Araceae [サトイモ科]

382. 学名：*Alocasia odora* (Loddiges) Spach

和名：クワズイモ

方言名：カツアヌパ、ビョーノハ

生活形：ファ

用途：薬用、生活用材

薬用として、火であぶった茎に塩を振り傷口に塗ると、傷口が閉じ2度と開かないと言う。葉でカマドの灰を包み痔の周辺部を温める。葉を傘にしたり、柄杓（ムルン）を作ったり（高原 1985）、敷物にも用いた。豊年祭で作る餅（カサヌファー餅）にはバショウの葉を使う（高原 1980）。

383. 学名：*Colocasia esculenta* (Linn.) Schott

和名：サトイモ

方言名：ムンツイ

生活形：ファ

用途：食用

栽培し、根茎を食用にする。

384. 学名：*Colocasia esculenta* (Linn.) Schott var.
aquaticis (Hasskarl) Kitamura ex Hotta

和名：ミズイモ（タイモ）

方言名：トーン

生活形：ファ

用途：食用

栽培し、食用にする。

385. 学名：*Epipremnum pinnatum* (Linn.) Engler

和名：ハブカズラ

方言名：

生活形：ファ

用途：観賞用

鑑賞用として庭に植える。

386. 学名：*Pistia stratiotes* Linnaeus

和名：ボタンウキクサ（リュウキュウウキクサ）

方言名：

生活形：ファ

用途：

387. 学名：*Typhonium djvaricatum* (Linn.) Decaisne

和名：リュウキュウハンゲ

方言名：ピロン

生活形：ファ

用途：薬用、観賞用

薬用として、ハブやムカデに咬まれた時の痛み

をとる。葉や根を叩いて、塩とヘチマの葉を混ぜて咬まれた患部に塗る。庭の一部に植える。

Pandanaceae [タコノキ科]

388. 学名：*Pandanus odoratissimus* Linnaeus fil.

和名：アダシ (カネアダシ)

方言名：アダンニ

生活形：キ

用途：食用、生活用材、燃料

実に毒があると言うが、甘く、生食された。若芽を酢の物にする。これは精進料理の一品である。気根を割いて日に乾かしたものをウシやウマをつなぐ綱 (アダンニシ) にしたり、尻糸 (ユーリ) にした (高原 1980)。これで、袋 (アンツク)、草履 (アダシバズウリ)、風車 (マダラマ) やがらがら (ドンドローマ) を作る (山城 1972)。乾いた葉を燃料にした。

Cyperaceae [カヤツリグサ科]

389. 学名：*Cladium jamaicense* Crantz

和名：ヒトモトススキ (シリキリガヤ)

方言名：

生活形：ファ

用途：

稲がススキのように繁茂するようにとの願いからススキを生け、稲の生育を祈願する (竹富町古謡編集委員会 1980; 山城 1972)。

390. 学名：*Cyperus kyllingia* Endlicher

和名：オオヒメクダ

方言名：

生活形：ファ

用途：

391. 学名：*Cyperus monophyllus* Vahl

和名：シチトウイ、シチトウ、リュウキュウイ

方言名：サーラ

生活形：ファ

用途：生活用材

これを刈り取り、乾かしてむしろ (オームス)

に加工する。

392. 学名：*Cyperus polystachos* Rottboell

和名：イガガヤツリ

方言名：ガヤナ

生活形：ファ

用途：

393. 学名：*Cyperus rotundus* Linnaeus

和名：ハマズゲ (コウブシ)

方言名：カブシ

生活形：ファ

用途：飼料

ウシの飼料にする。畑に生えると厄介な雑草である。

394. 学名：*Scripus triquetus* Linnaeus

和名：サンカクイ

方言名：サーラ

生活形：ファ

用途：生活用材

これを刈り取り、乾かしてむしろを編む。

Musaceae [バショウ科]

395. 学名：*Musa balbisiana* Colla

和名：リュウキュウバショウ (イトバショウ)

方言名：バサ、バソー、アソー

生活形：ファ

用途：薬用、生活用材、衣料

これをピキバソーとも呼ぶ。食用にはならない。茎の芯や葉は背中に貼ると解熱に効果がある。葉柄の繊維で芭蕉布を作る。根の汁を三線 (サンシン) に和紙を貼る接着剤にした。豊年祭の時に、葉でおにぎりや餅 (カーサバ) を包む。

396. 学名：*Musa nana* Linnaeus

和名：サンジャクバナナ

方言名：サンジャク

生活形：ファ/キ

用途：食用

栽培し、果実を食用にする。

397. 学名：*Musa sapientum* Linnaeus
 和名：バナナ
 方言名：バサ、バソー、ミーバソー
 生活形：ファ／キ
 用途：食用
 これをミーバソーと呼ぶ。栽培し、果実を食用にする。実を「オンダク」と言う。

用途：観賞用
 鑑賞用として庭に植える。

Zingiberaceae [ショウガ科]

398. 学名：*Alpinia intermedia* Gagnepain
 和名：アオノクマタケラン
 方言名：サミ
 生活形：ファ
 用途：生活用材
 葉で餅を包む。
399. 学名：*Alpinia speciosa* (Wendl.) K. Schumann
 和名：ゲットウ
 方言名：サミ
 生活形：ファ
 用途：生活用材、繊維、結束
 繊維は縄（フガラーチナ）によって（高原1980、1985）、草履を作るのに使った。家の垂木を縛ったりロープとしても用いた。葉は餅（サミムチ）を包むのに使う。匂いがきついので蒸してから使う。

402. 学名：*Zingiber officinale* Roscoe
 和名：ショウガ
 方言名：ソングー
 生活形：ファ
 用途：食用
 栽培し、食用に供する。

Cannaceae [カンナ科]

403. 学名：*Canna coccinea* Miller
 和名：アカバナダンドク
 方言名：マーランバソー
 生活形：ファ
 用途：飼料
 葉をやぎの飼料にする。子供が花の蜜を吸う。
404. 学名：*Canna indica* Linnaeus var. *flava* Roxburgh
 和名：キバナダンドク
 方言名：マーランバソー
 生活形：ファ
 用途：飼料
 葉をやぎの飼料にする。子供が花の蜜を吸う。

Orchidaceae [ラン科]

400. 学名：*Curcuma domestica* Valetton
 和名：ウコン
 方言名：ウキイリイ
 生活形：ファ
 用途：薬用、染料
 栽培し、塊根は薬用として、肝臓、腎臓、腹痛、鎮咳の薬になり万病の薬とも言う。着物を織る糸を染める染料（黄色）にする（高原1985）。
401. 学名：*Zingiber mioga* Roscoe
 和名：ミョウガ
 方言名：
 生活形：ファ

405. 学名：*Geodrum densiflorum* (Lam.) Schlechter
 和名：トサカメオトラン
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：
406. 学名：*Platanthera stenosepala* Schlechter
 和名：タイトントンボソウ（イリオモテトンボ）
 方言名：
 生活形：ファ
 用途：